



国立大学法人  
豊橋技術科学大学

2026

TUT ALUMNI NEWSLETTER

No.

43

# 同窓会報



第43号 2026 豊橋技術科学大学同窓会







旧6系（建設工学系）4期生

若林 亮

株式会社 日建設計  
デザインフェロー

豊橋技術科学大学同窓会の皆様方におかれましては、常日頃より同窓会活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

昨年は、大阪万博の盛況、ドジャースのワールドシリーズ優勝に貢献した日本選手達の大活躍!といった明るいニュースの一方、高市総理の存立危機事態発言に端を発する中国側のレアアースの対日輸出規制、年初のアメリカによるベネズエラへの軍事攻撃と、様々な国内外の動きに影響を受けながらも同窓生の皆様は奮闘、活躍されていることと思います。

さて、今年は母校の50周年!

大学は50周年を記念して様々な事業を企画されていて、同窓会もその支援を行うべく、寄付に加えて1期生から今年の卒業生までに声かけをする「各系の同窓懇親会」を卒業生連携室と協働して準備をしています。「各系の同窓懇親会」は、50周年を機に、改めて同窓生のネットワークを築くチャンスでもあり、またWEB名簿システムの卒業生の連絡先の整備などに繋がればと思っています。皆様におかれましては、是非、同窓懇親会にご参加いただくとともに、参加できない方もご自身の連絡先をWEB名簿システムにご登録いただければ幸いです。

また、50周年記念事業の一つとして、皆様のキャンパスの原風景でもあるあの中庭を、学内外の人が自然に集い、学び合い、交流できる場とする「イノベーション・コモンズ」として整備するデザインコンペも企画されています。余談ですが、私自身、同窓会会長と建築設計を生業としている立場で審査員として参加させていただきたくて、同窓生や在学生からのアイデアを楽しみにしているところです。

同窓会活動としては、2023年秋号を初号に配信を始

めた季報「技科大の顔」は、多くの卒業生のご協力を得て、2026年冬号まで配信できました。初号から数えて10号、延べ200名の卒業生の活動と母校への想いが伝わる企画として継続しています。ご執筆いただいた皆様、とりまとめをいただいている先生、在学生の皆様にご感謝申し上げます。「技科大の顔」は懐かしい顔を見つけたり、声かけのきっかけとなったりと好評で、皆様におかれましては、ご一読いただければと思います。また、来年度は、海外留学生版を企画していて、こちら楽しみになさって下さい。

この他にも例年継続している優秀な学部卒業生への「同窓会会長賞」の授与、「学生課外活動支援」の他、前古野同窓会会長から始まり好評をいただいている食堂での「めざましごはんプレミアム」、加えてコロナ禍の中で始めた「同窓会カレー」への経費支援など、学生の健康、学びや研究の糧となる支援を行っています。

また、同窓生を対象とした「懇親会やパーティ等の交流活動への助成」ですが、昨年度は13の懇親会、267名の方に一人2千円の助成をさせていただきました。特に今年度は、4期生の系をまたいで開かれた全系約70名の同窓懇親会をはじめ、「雲雀会」と名のつく企業の中での同窓生懇親会など、多くの懇親会が企画、開催されています。皆様も同窓生が集まる場に、是非、この助成をご活用ください。

最後になりますが、私は今年度を持って同窓会会長を退任させていただきます。8代目として2020年度からの6年間、特に就任早々にコロナ禍となり、同窓会から在学生への支援を行うなどの多くの活動を行うことができました。同窓会役員の皆様をはじめ、多くの同窓生の皆様に支えていただいたおかげと、心から感謝と御礼を申し上げます。

また、次期同窓会会長は、1系で1989年修了の山本義久さんに引き継いでいただく予定です。今後とも、同窓会活動への皆様のご協力、ご理解をお願いして、退任の挨拶とさせていただきます。

長きにわたり、ありがとうございました。



令和7年11月1日(土)13時より、第4回目となる「ホームカミングデー2025」を豊橋技術科学大学との共催でA-101大講義室にて開催しました。

今年のホームカミングデーでは、博士後期課程の学生による研究成果発表や、総合文化部喫茶部門の学生によるドリンクサービスで参加者をお迎えしました。

約250名の卒業生・修了生、在學生、教職員の皆さんが集まり、盛況な会となりました。

開会にあたり、本学吹奏楽団による歓迎演奏が行われ、華やかな雰囲気の中でスタートしました。続いて、若原学長よりご挨拶と大学の近況報告がありました。

同窓会会長であり、株式会社日建設計のデザインフェローでもある若林氏からは、同窓会の活動状況についてご報告いただきました。

在學生からの感謝のメッセージとして、ロボコン同好会が活動内容を紹介し、日頃の支援への感謝の言葉を述べました。

また、10月に実施した課外活動団体支援募金「Giving Campaign 2025」の報告も行われ、支援者の皆様への感謝が伝えられました。

その後、参加者は所属系ごとに研究室見学や系の取り組み紹介、恩師や在學生との交流を楽しみました。

各系の企画の終了後は、福利施設「ひばりラウンジ」に会場を移し、同窓会主催の交流会を開催しました。こちらには約150名が参加し、井上理事のご挨拶、若林会長の乾杯の発声で開会しました。

会場では、あちこちで思い出話に花が咲き、活躍中の卒業生からの挨拶もありました。抽選会では、東三河の地酒が景品として贈られ、当選された5名の方に喜んでいただきました。

最後は神保理事の閉会の挨拶で、盛況のうちに幕を閉じました。

参加者からは、「久しぶりの再会や新たなネットワーク形成ができて有意義であった」「ご活躍の皆様のお話を伺い在校生の意気込みも感じられ交流が深まった」といった感想が寄せられました。

豊橋技術科学大学は2026年に開学50周年を迎えます。節目の年を迎えるにあたり、卒業生の皆様とのネットワークをさらに強化してまいります。

今後とも、温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお申し上げます。



豊橋技術科学大学  
公式マスコットキャラクター「ギカジカ」



吹奏楽団によるオープニング歓迎演奏



若原昭浩学長の近況報告



若林亮同窓会長の活動報告



ロボコン同好会伊藤原野さんの活動内容の紹介



会場の様子



交流会の様子



交流会の集合写真



## 学内近況報告

系長  
中村 祐二

同窓会の皆様におかれましては、お元気にご活躍のこととお慶び申し上げます。平成22年4月に学部・大学院組織を再編して、5つの系と総合教育院において教育と研究が行われており、旧機械システム工学系(旧1系)および旧生産システム工学系(旧2系)を統合した機械工学系(1系)として活動しております。

機械工学系の組織は、機械・システムデザインコース、材料・生産加工コース、システム制御・ロボットコース、環境・エネルギーコースの4コースで構成され、計15研究室があります。教員、学生ともにコースに所属する研究室に在籍しております。執筆時現在(2025.11)、教授15名(兼務教員1名含む)、准教授10名、助教10名の計35名の教員が所属しております。2025年度7月末には、計測システム研究室の秋月 拓磨 助教が山梨大学の准教授として異動されました。2025年10月から、機械ダイナミクス研究室の田尻 大樹 助教、マイクロ・ナノ機械システム研究室の岡本 俊哉 助教、環境熱流体工学研究室の岸本 龍典 助教がそれぞれ任期のないテニユア助教として認定され、当系の教育研究を益々盛り上げていただけるものと期待されます。

総合研究棟の一つであるE1、E5棟に引き続き、概算要求での施設整備費として承認されたE3棟の改修が本年度実施されています。また2020年度以降、教育現場に大きな混乱をもたらした新型コロナウイルス感染症の影響で一時期は教育も混乱しましたが、今はそれも落ち着き、活気に満ちたキャンパスに戻りつつあります。副産物として浸透したオンライン授業も効果的に取り入れた新しい教育スタイルへと

変貌を遂げており、時代に合わせた教育環境を提供しています。留学生数も以前に比べて格段に増えており、多様な学生が様々な場面で活躍しています。特に本系の学生の活躍については、「機械工学系公式X(旧twitter)」([https://x.com/TUT\\_kikai](https://x.com/TUT_kikai))でも配信しております。是非とも皆さま、フォローをお願いします。

このように、本学・本系を取り巻く環境は留まることなく都度変化しておりますが、本系では、今まで以上に社会に貢献できる教育・研究を行ってまいります。近く50周年を迎える節目の年となりますが、同窓会の皆様には、引き続きご支援、ご指導を賜りましたら幸いです。末尾ながら、同窓生の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

なお、本学名誉教授である竹園茂男先生が本年7月にご逝去されました。先生の永年にわたる当系に対する暖かいご指導に感謝するとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

## 教職員紹介 (令和7年10月現在)

### 【機械・システムデザインコース】

教	授	河村 庄造、足立 忠晴、柴田 隆行、永井 萌土
准	教 授	竹市 嘉紀
助	教	田尻 大樹、岡本 俊哉

### 【材料・生産加工コース】

教	授	三浦 博己、小林 正和、戸高 義一
准	教 授	安井 利明、安部 洋平、大場 洋次郎、足立 望
助	教	Khoo Pei Loon、石井 裕樹

### 【システム制御・ロボットコース】

教	授	佐藤 海二、内山 直樹、高山 弘太郎、 高木 賢太郎
准	教 授	佐野 滋則、高橋 淳二
助	教	比留田 稔樹、武田 沈晶、堀尾 亮介

### 【環境・エネルギーコース】

教	授	飯田 明由、中村 祐二、土井 謙太郎、 横山 博史
准	教 授	鈴木 孝司、関下 信正、松岡 常吉
助	教	岸本 龍典、倉石 孝、松木 大輝

### マイクロ・ナノ機械システム研究室の近況報告

助教 岡本 俊哉

卒業生ならびに修了生の皆様におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。マイクロ・ナノ機械システム研究室は、現在、柴田隆行教授と岡本の2人で運営しております。私は2021年度に着任しました。また、永井萌土教授が2022年より独立され、ハイスループットマイクロ・ナノ工学研究室を立ち上げられたことで、現在の体制になっております。2025年度は、修士の学生が11名、学部生が10名、そして研究員1名で構成されています。ハイスループットマイクロ・ナノ工学研究室と居室や実験室、一部の装置などを共有していることもあり、学生間の交流も多く、活気のある研究室となっています。

当研究室では、『MEMS技術を究めナノとバイオへの架け橋を築く!』、『技術を究め、技術を創る。』をモットーに研究を行っています。その中で現在は、微細加工技術を基盤に、「単一細胞のナノメートルスケールでの加工、解析を実現する装置開発」と、「マイクロ流体デバイスを用いた診断システムの構築」を中心に取り組んでおり、いずれも物理現象の摂理に則ったスマートなメカニズムによる目的の実現を目指し、研究を進めています。特に診断システムの開発においては、数年後の社会実装を目標に研究を加速させています。

診断システムは、サンプル中の遺伝子やタンパク質の検出、定量を目的としています。マイクロ流体デバイスを用いることで、より少ないサンプルで、

より多くの項目数を、短時間で分析できるようになります。しかしながら社会実装においては、いかに高度な分析や診断ができたとしても、コストについて考えなければなりません。そこで当研究室では、マイクロ流体デバイスの構造だけで、これらの分析に必要な任意の流体制御を実現する新たな制御技術開発に取り組んでいます。これにより、余計な制御装置やそのコストを削減することができます。

このように当研究室の研究は、バイオ分野へ応用するものが多いですが、我々は機械工学系であることを強く意識しています。機械工学では「ものづくり」を行います。良い結果（チャンピオンデータ）を1度取るだけでなく、何度も同じようなデータを得られるようになって初めてそれが製品になりえます。このことから普段の研究においても、マイクロ流路内の機構が単に狙い通りの動作をするか否かだけでなく、その境界（閾値）はどこにあるのかや、影響を与えるパラメータは何なのかなどを追究し、その機構や制御理論を汎用的に応用できるようになることを目標に研究をしています。

卒業生ならびに修了生の皆様におかれましては、近くにお越しの際にはぜひ研究室にもお立ち寄りいただければ幸いです。研究室一同お待ちしております。最後になりますが、皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。



## 高強度マテリアル開発・評価研究室の近況報告

准教授 大場 洋次郎

卒業生ならびに修了生の皆様におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

2025年度の本研究室のメンバーは、教授の三浦博己先生、研究員1名、秘書1名、修士学生14名、学部生6名と私となっています。ベトナムとマレーシアから来た留学生が在籍しています。お隣の材料保証研究室と実験装置類を共用したり、大掃除などの活動を一緒に行ったりすることも多く、大所帯です。

本研究室は、教員居室と学生居室に加えて、熱機械実験室と試料準備室、SEM室、大実験室と呼ばれる実験室を使用しています。さらに、近年E1棟の改修工事が行われ、E3棟にあった低層実験室がE1棟に引越しとなりました。E1棟は壁も床も新品同様で、冷暖房も設置されています。昨今は気温の高い日が多くなってきていますが、実験装置にも作業する人間にとっても環境が改善されました。一方で、古い部屋では、エアコンや分電盤の故障等が時々生じるようになってきました。今後も、老朽化対策には継続的に取り組んでいかなければなりません。

研究テーマは、金属材料の機械的特性と金属組織の関係に関するものを中心としており、より高強度、高性能な金属材料の実現を目指して活動しています。実験装置として、最新の大型圧延機や高精度解析ソフトウェア類、ワークステーションなどが新たに導入され、研究に活躍しています。社会のニーズの変化や研究の進展にともない、実験装置の更新にも継

続的に取り組んでいかなければなりません。大学予算の不足は世間でも度々話題になっていますが、本学においても学内の予算のみでは到底研究費を賄うことはできず、外部の競争的研究費や企業との共同研究費が重要性を増してきています。

新型コロナの影響はすっかり感じられなくなりましたが、コロナ禍で導入された様々なオンラインシステムは、利便性のために今も活用されています。研究面では、東京への出張はすっかり無くなり、web会議に切り替わりました。コロナ禍以前を振り返ると、東京に行く目的のほとんどが研究打ち合わせで、そのために大きな労力を費やしていたことが実感されます。その一方で、ほとんどの学会が対面での開催に戻りました。

近年は就職活動が激増しており、学生が疲弊し、研究活動にも支障が出てきてしまっています。少子化で売り手市場になってきているとは言え、学生の向上心も増してきているのかも知れません。学生に安心して研究に励むことができる環境を提供するために何ができるのか、日々悩んでいます。

同窓生の皆様におかれましては、豊橋付近を訪れる機会がございましたら、ぜひ研究室にもお立ち寄り頂ければと存じます。末尾ながら、同窓生の皆様の今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。



## 計測システム研究室

教授 高山 弘太郎

計測システム研究室は、30年以上前に「材料加工システム研究室」から名称変更されて以来、その系譜を継ぎ、現在、システム制御・ロボットコースに属する4研究室のひとつとして歩みを続けています。長い歴史の中で、機械工学の枠組みを広く捉え、多様な分野に研究を展開して参りました。2020年3月までは、章忠教授（2020年4月に広島工業大学工学部にご転出）が研究室を主宰し、視線推定やCATシステムなどの画像認識に関する研究、ウェブレット変換等の信号処理に関する研究が推進されました。これらには、2015年4月に助教として着任し、2025年8月に山梨大学准教授として転出された秋月拓磨助教も参画していました。2016年1月からは真下智昭准教授（2022年4月より岡山大学 教授）が加わり、マイクロロボット・超音波モータ・圧電/アクチュエータの領域へ研究を拡張しました。その後、2021年4月に農業工学（農業情報システム、植物診断計測、植物環境制御）を専門とする高山弘太郎教授が着任し、「機械工学による地域農業イノベーション」を掲げ、研究室は新たな挑戦のフェーズへと入っています。

農業は、担い手不足・高齢化・大規模離農といった深刻な課題に直面しています。特に本学が位置する東三河地域は、国内有数の施設園芸（ハウスなどの施設を用いて、栽培環境を人間が制御する生産形態）地帯でありながら、例外ではありません。このような状況を背景に、当研究室では、計測システム工学で農業の労働生産性と土地生産性を高める技術を創出し、開発成果を迅速に地域実装することで施設園芸を活性化させるとともに、新技術の全国・世界展開を目指し、研究に取り組んでいます。

研究室の核となるコンセプトが「スピーキング・プラント・アプローチ（Speaking Plant Approach）」です。このコンセプトは、「様々なセンサを用いて植物の生体情報を計測して生育状態を診断し、その診断結果に基づいて栽培環境を適切に制御する」というものであり、世界的にも施設園芸の生産革新技術として注

目されています。当研究室ではこれまでに、リアルタイム光合成計測に基づく「光合成最大化」環境制御システムや生育状態を網羅的に把握する植物生体画像計測ロボットの開発に成功しています。これらの先端技術は、科学研究費のみならず、農林水産省・経済産業省・環境省、愛知県・豊橋市・愛媛県などの多層的な支援を受けながら、研究員3名、大学院生16名、学部生9名、研究補助員5名で推進されています（写真1）。直近では、「利益最大化型セミクロード温室」の実用化を目指し、本学発ベンチャー PLANT CASE 株式会社（認定番号第7号）を設立し、地域の施設園芸産業との連携を強化しつつ、開発成果の地域実装を本格化させています。また、生体情報計測技術を強みとして、本学の協定校であるマレーシア科学大学との共同研究など、海外研究機関と連携も推進しています。

キャンパス内には、研究開発拠点として人工光型植物工場（コンテナ型2棟）、太陽光型植物工場（従来型1棟・セミクロード型1棟）が整備されています（写真2）。ご希望があれば、研究室メンバーがご案内し、実際の計測・制御技術をご覧いただくことも可能です。本研究室では、機械工学の知見を活かし、地域農業・社会課題への挑戦を続けています。今後も、共同研究や成果活用を通じて、皆様とともに「未来の農業を工学で創る」取り組みを進めてまいります。どうぞお気軽にご連絡・ご訪問ください。



## 環境熱流体工学研究室の近況報告

越智 壮二郎、土井 謙太郎

皆様、お変わりありませんでしょうか。当研究室は、2020年4月に先代の北村健三先生の後を継いで以来、早くも6年目に入りました。発足当時はコロナ禍の真ただ中で勉学も研究も思い通りに進まない時期が続きましたが、ここ数年は平常運転に戻り、にぎやかな毎日を過ごしております。研究環境も少しずつ充実してきており、発足当時とは比べものにならないくらい様々なことができるようになってきました。研究室の学生も、先輩から代々受け継がれている微細加工のレシピを基に、各自で工夫を凝らしながらいかに小さく精度よく加工を行うことができるか、日々努力を惜しまず研究に邁進してくれています。一方、ソフトボール、テニス、駅伝、バーベキュー、飲み会など、運動と遊びも全員で全力投球しており、何事にも思いきり楽しむDNAも引き継がれています。最近では、学生の研究成果も定期的に学会発表できるようになり、国内の学会発表にとどまらず、国際会議で発表できるまでになりました。これも、卒業生・修了生の皆さんが地道に積み上げてくれた基礎があってこそこのことと感謝しています。

OB・OGの皆様、いかがお過ごしでしょうか。修士2年の越智壮二郎です。最近の研究室の様子についてご報告申し上げます。本研究室は、土井謙太郎教授と鈴木孝司准教授、岸本龍典助教のもと、主に、マイクロ・ナノスケールの熱および流体の輸送現象の解明に取り組んでいます。先日、日韓共同開催の国際会議に出席し、自身の研究成果を英語で発表して参りました。英語でのプレゼンテーションは、自身の課題を浮き彫

りにするとともに社会で活躍するうえで重要な能力であることを痛感しました。

今年は、スロバキアからの短期留学生や大阪公立大学から研究留学生が来てくださり、研究室全体にとって良い刺激となりました。また、学生はみな研究室行事や打ち上げへの参加も活発で、先輩、後輩関わらず仲を深めることが出来ています。2025年10月25日に行われた本学開学記念駅伝大会では、学部4年から修士2年まで研究室のメンバーとチームで参加しました。結果は4位となりましたが、みな意外な一面を知れたことや全員が全力を尽くして走ることで非常に充実したイベントとなりました。

学生生活も残すところあとわずかとなってきましたが、良い締めくくりができるよう、日々を大切に過ごしていきたいと考えています。卒業生ならびに修了生の皆様におかれましては、ご多忙のことと存じますが、豊橋方面にお越しの際は、是非研究室へお立ち寄りください。研究室一同、心よりお待ちしております。末尾ながら同窓会の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。



駅伝大会の集合写真



サテライトオフィスでの中間報告会



緊張の国際会議発表とその後の打ち上げ

## 学内近況報告

准教授

### 羽賀 望

卒業生・修了生の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。気候が比較的穏やかな豊橋でも、さすがに今夏は猛暑・酷暑の日が長く続きました。そのような中でも8月23日のオープンキャンパスにお越しになったOB・OGの方々、誠にありがとうございました。私と研究室見学を対応させていただきましたが、逆に色々なお話も伺い、楽しい時間を過ごすことができました。

2024年度も、電気・電子情報工学系に100名を超える新しい学生たちが入学・編入してきました。また、教職員に関するご報告の一つとして、未来ビークルシティリサーチセンター 特任教授 大平孝先生が電子情報通信学会 功績賞を受賞しました。この他にも、多数の教員・学生が研究に関わる賞を受賞しております。本系研究者・学生の活躍を謹んでご報告させていただきます。

次に、2024年度の先生方の異動についてご報告させていただきます。まず、2024年10月には勝見亮太先生が材料エレクトロニクス分野の助教から准教授に昇任されました。また、2025年3月末には集積電子システム分野から准教授の関口寛人先生が名城大学へ転出されました。一方で、同月には集積電子システム分野の特定教授として須藤稔先生が、機能電気システム分野の助教として佐藤孝政先生が着任されました。さらに、2025年4月に集積電子システム分野の助教として權益賢先生が着任されました。

以上が電気・電子情報工学系の2024年度の近況報告になります。

さて、2025年6月には次世代半導体・センサ科学研究所 (IRES<sup>2</sup>) の新たな研究施設「LSI棟 (IRES<sup>2</sup>-4)」および「オープンラボ棟 (IRES<sup>2</sup>-5)」が竣工し、新棟開所式が挙行されました。さらに、本学と豊橋市が地域社会の発展と人材育成を目的とした覚書が締結されるなど、半導体を核とした産業振興の枠組みが充実してまいりました。今後も本系教職員一同、社会に貢献できる人材育成と教育研究活動に一層取り組んでまいりますので、同級生の皆様には変わらぬご支援とご鞭撻をいただければ幸いです。

## 教職員紹介 (令和7年12月31日 現在)

### 【材料エレクトロニクス分野】

教 授	松田 厚範、内田 裕久、八井 崇、武藤 浩行 *1
准 教 授	中村 雄一、河村 剛、加藤 亮 *2、勝見 亮太
助 教	引間 和浩

### 【機能電気システム分野】

教 授	滝川 浩史、稲田 亮史、村上 義信
准 教 授	川島 朋裕、東城 友都
助 教	佐藤 孝政

### 【集積電子システム分野】

教 授	澤田 和明 *3、石川 靖彦、岡田 浩 *1、河野 剛士 *3 高橋 一浩、須藤 稔
准 教 授	山根 啓輔、崔 容俊、野田 俊彦 *3
助 教	Piedra Lorenzana José Alberto、權 益賢
特 任 助 教	土井 英生

### 【情報通信システム分野】

教 授	市川 周一、上原 秀幸、田村 昌也、市坪 誠 *4
准 教 授	竹内 啓悟、Xun Shao、羽賀 望
助 教	小松 和暉、Maodudul Hasan

### 【研究推進課技術支援係】

技術専門職員	日比 美彦、飛沢 健、赤井 大輔
--------	------------------

\*1総合教育院、\*2教育研究基盤センター、

\*3次世代半導体・センサ科学研究所、\*4高専連携地方創生機構

## ワイヤレス通信研究室の近況報告

中野 笙太

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。私たち「ワイヤレス通信研究室」は現在、上原秀幸教授および小松和暉助教の指導のもと、博士前期課程学生8名、学部学生5名が在籍しております。

本研究室では、無線通信技術の高度化に向けた研究を進めています。現在は、コミュニケーショングループとセンシンググループの二つのグループに分かれて研究に取り組んでいます。コミュニケーショングループでは、周波数資源の有効活用を目指した次世代通信方式に関する研究を進めています。特に、同一周波数帯で同時に送受信を行う「無線全二重通信」は、理論上通信効率を2倍にできる有望な技術です。しかし、送信信号が受信信号に干渉する“自己干渉”が大きな課題となります。本研究室では、この自己干渉をデジタル信号処理により熱雑音レベルまで除去する「デジタル自己干渉キャンセラ」の研究に取り組んでいます。一方、センシンググループでは、電波の性質を利用して得られる情報を活用した新しい無線システムの創出を目指し、屋内位置推定と端末識別について研究しています。屋内位置推定の研究では、Wi-FiやBLEビーコンを利用して、本学構内で利用可能な人物ナビゲーションシステムの開発を進めています。GPSが利用しにくい屋内環境でも高精度に位置を特定

できるよう、RSSI（受信信号強度）を用いた手法の改良を行っています。端末識別の研究では、通信機器の微小なハードウェア差異を活用して端末を見分けるRFフィンガープリンティングの研究を進めています。低消費電力・低コストなIoT機器でも高いセキュリティを実現できるよう、環境変動に強い識別アルゴリズムの開発を行っています。

これらの研究活動に関して、研究室のホームページ(<https://comm.ee.tut.ac.jp/wc/>)で公開しております。お時間がある時にご覧いただけたら幸いです。

研究室の行事では、BBQ、パターゴルフ大会などのレクリエーションや電磁波工学研究室（田村研究室）と応用電磁気研究室（羽賀研究室）の3研究室合同でボウリング大会や忘年会、研究室旅行を実施するなど、学年や研究室を超えた親睦を深める機会も多くあり、研究による疲れを定期的によりフレッシュすることで研究生活を楽しく過ごしています。

ご多忙とは存じますが、豊橋方面へ来られる機会がございましたら、お気軽に研究室へお立ち寄りください。研究室一同、心から歓迎いたします。先輩方の大学在学中、卒業・修了後のお話や現在の職場の経験談などの貴重なお話を頂ければ幸いです。

末筆ながら、卒業生・修了生の皆様のご健康とさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。



## 学内近況報告

系長

南 哲人

同窓生のみなさまには、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。生成 AI を中心とした情報技術の進展は依然として著しく、社会的・産業的インパクトはますます大きくなっております。情報工学は時代とともにその姿を変え続ける学問領域であり、本系ではその変化を的確に捉えつつ、教育と研究の双方において確かな基盤の強化を進めております。

本年度は、教員人事、教育環境の整備、そして若手教員の研究的飛躍など、いくつかの重要な動きがございましたので、ここにご報告申し上げます。

まず、人事に関するご報告です。秋葉友良先生および福村直博先生が教授に昇進されました。お二人はこれまでも教育・研究・学内運営の中心として尽力されてきましたが、この昇進は本系における研究力のさらなる強化と若手人材育成体制の充実にとって大変心強いものであります。

一方で、本系を永年支えてこられた教員の転任もございました。岡田美智男先生は、2025年3月をもって豊橋技術科学大学を退職され、その後、筑紫女学園大学現代社会学部に教授として着任されました。また、本系に在籍された上田祥代先生は現在津田塾大学において研究・教育活動を展開されており、顧淳社先生は福井大学学術研究院工学系部門にてご活躍されています。それぞれ新たな環境のもとでその専門性をさらに発展させておられ、本学でのご貢献に深く感謝申し上げます。

次に、若手教員の研究面での顕著な成果についてご紹介いたします。佐藤幸紀准教授は、ASPIRE（先

端国際共同研究推進事業）に採択され、国際共同研究の新たな展開を進めています。また、上原一将准教授は JST 創発的研究支援事業に採択され、脳脊髄系インタラクションの先端研究に取り組んでおられます。こうした若手教員の挑戦は、本系の未来を支える極めて重要な推進力となっております。

教育環境の整備についても触れておきます。コロナ禍以降長く閉室していた談話室（F-202）を本年度より再開いたしました。現在は、学生の自習スペースとして、またオンライン講義の受講環境として多くの学生が利用しており、学生同士の交流と学修活動を支える場として再び機能し始めています。加えて、大学・高専機能強化支援事業による修士課程教育の拡充や、IMLEX プログラムをはじめとする国際教育体制の整備も着実に前進しています。博士課程学生や社会人博士志望者に対しても、長期履修制度やオンライン指導体制の導入など、柔軟で多様な学修を可能とする仕組みづくりを進めております。今後も、次世代研究者の育成と社会における高度専門職人材の輩出を目指し、制度の改善と教育研究環境の充実を図ってまいります。

以上、2025年度における情報・知能工学系の主な近況をご報告申し上げます。本系は今後も、教育・研究・社会連携の各側面において確実な前進を遂げてまいります。同窓生のみなさまには、これまでと変わらぬご支援と温かいご助力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## 教職員一覧及び学生現員（2025年10月現在）

### 【計算機数理科学分野（Computer & Mathematical Sciences）】

氏名	職名	専門分野
鈴木 幸太郎	教授	情報セキュリティ
川端 明生	教授	スイッチングシステム、並列分散処理システム、ネットワークアーキテクチャ、ネットワーク品質
後藤 仁志	教授	計算化学、ハイパフォーマンスコンピューティング（情報メディア基盤センター 兼任）
栗田 典之	准教授	量子生物学、計算科学、生命情報科学
佐藤 幸紀	准教授	計算機アーキテクチャ、計算機システム、ソフトウェア性能工学
ダラルノ ミケレ	准教授	量子情報
五十幡 康弘	准教授	計算化学、量子化学、理論化学（情報メディア基盤センター 兼任）
中村 純哉	准教授	分散アルゴリズム、分散システム、耐故障（情報メディア基盤センター 兼任）
原田 耕治	准教授	理論生物学、複雑系（IT活用教育センター 兼任）
相田 慎	助教	計算量理論、アルゴリズム理論
中井 雄士	助教	情報セキュリティ、暗号理論

### 【データ情報学分野（Data Informatics）】

氏名	職名	専門分野
北岡 教英	教授	音声情報処理
土屋 雅稔	教授	自然言語処理
秋葉 友良	教授	音声言語処理、自然言語処理、情報検索
渡辺 一帆	教授	統計的学習理論、機械学習
西村 良太	准教授	音声知能システム
若林 佑幸	助教	音響信号処理
青野 雅樹	特任教授	データサイエンス、情報検索（特に3D検索、画像検索、映像検索）、深層学習、テキストマイニング

### 【ヒューマン・ブレイン情報学分野（Human & Brain Informatics）】

氏名	職名	専門分野
中内 茂樹	教授	視覚認知情報学、視覚技術
北崎 充晃	教授	知覚心理学、認知神経科学、バーチャルリアリティ
南 哲人	教授	認知神経科学
松井 淑恵	教授	聴覚心理学、音楽心理学、演奏科学（エレクトロニクス先端融合研究所 兼任）
福村 直博	教授	計算論的神経科学
村越 一支	准教授	計算知能、神経情報科学
上原一将	准教授	神経科学、神経工学
杉本 俊二	助教	神経科学
日根 恭子	助教	認知科学、視覚科学
田村 秀希	助教	視覚科学、感性情報学

### 【メディア・ロボット情報学分野（Media Informatics & Robotics）】

氏名	職名	専門分野
栗山 繁	教授	モーション・メディアとグラフィックス、モーションデータの生成と解析、AIに基づく画像メディアの生成
三浦 純	教授	知能ロボティクス、ロボットビジョン、人工知能
垣内 洋平	教授	ロボットシステム、ヒューマノイドロボット（エレクトロニクス先端融合研究所 兼任）
金澤 靖	准教授	コンピュータビジョン、画像処理
菅谷 保之	准教授	コンピュータビジョン
大村 廉	准教授	ユビキタス・コンピューティング、ウェアラブル・コンピューティング、分散システム、オペレーティング・システム
林 宏太郎	助教	ヒューマン・ロボットインタラクション、認知科学、社会学

#### 【事務関係】

事務職員：中井 絃余（C棟事務室）  
佐藤 静香（F棟事務室）  
山本 沙愛（F棟事務室）

#### 【技術職員】

技術職員：小西 和孝

#### 【学生現員】

学部：1年次 24名、2年次 36名、3年次 124名、4年次 129名  
博士前期：1年次 107名、2年次 103名  
博士後期：24名



## 情報・知能工学系 准教授 西村 良太

2025年4月に着任いたしました西村良太と申します。三重県出身で、鈴鹿工業高等専門学校を卒業後、豊橋技術科学大学に3年次編入し、博士後期課程までの7年と9ヶ月を本学で過ごしました。専門は音声対話システムで、音声言語情報処理や音声認識の技術を基盤に、人とコンピュータがより自然で楽しく対話できる仕組みの実現に取り組んでいます。具体的には、発話のタイミング、声の高さ・強さ・速さといった韻律情報の制御モデルを構築し、相槌やターンテイキングを含む会話の流れを滑らかにする研究を進めています。さらに、これらを統合して動かす分散型リアルタイム音声対話システム

基盤を開発し、学内外の研究者や学生が活用できるようオープンソースとして公開しています。

学位取得後は学外で研究と教育に携わり、約15年ぶりに本学へ戻ってまいりました。豊橋の町並みやキャンパスはより美しく洗練されましたが、学生のバイタリティは当時と変わらず力強く、挑戦を楽しむ気風に心強さを覚えます。これからは、学生と共に試行錯誤を楽しみ、互いのやる気を相互に加速させながら、私自身も成長し、情報・知能工学系および本学全体の発展に貢献してまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



## 出会うは偶然、出会ってからは必然！

情報・知能工学系 教授

岡田 美智男 (おかだ みちお)

みなさんは、「弱いロボット」という言葉をご存じでしょうか。「えっ、弱いロボット!?!」「どうしてロボットが弱い?」「暮らしに役立ってくれるのがロボットであり、弱くちゃダメなんじゃないの?」と、いろいろな感想を抱かれることでしょう。この〈弱いロボット〉の代表例は、自らではゴミを拾えないものの、まわりの手助けを上手に引き出しながら、ちゃっかりゴミを拾い集めてしまう〈ゴミ箱ロボット〉です。このアイデアは約20年前に、愛知県で開催された「愛・地球博」でのプロトタイプロボット展への応募の際に生まれました。「地球環境のために、こんな〈ゴミ箱ロボット〉はどうか!」と意気込んで応募したものの、あえなく書類審査でボツに! 当時の審査員(ロボット研究者たち)から見たら、「子どもの手助けがないとゴミを拾い集められないロボットなんて、ロボットとはいえないのでは?」「もっと未来志向の技術を提案してよ!」ということだったようです。

落選後は、しばらくは意気消沈していました。ところが数年後、縁があって豊橋技術科学大学にお世話になることに。ここは全国の高専等で腕を磨いてきたロボコンの強者(つわもの)たちの巣窟でした。わたしたちの研究室(ICD-LAB)に集まってきた学生たちの技術力と遊び心、そしてデザイン力が「半端ない!」のです。それから19年間、何気ない雑談の中から30タイプを超えるくらいの〈弱いロボット〉たちを生み出してき

ました。「アームを取り付ける技術もお金もないのなら、子どもたちの〈手〉を借りてしまったらどうか…」など、あり合わせの部品をかき集め、いろいろな制約も味方につけながら、それぞれの学生さんたちの得意なワザを持ち寄り、みんなでワイワイ・ガヤガヤと一つひとつのロボットを企画・立案し、仕上げていく。このブリーコラージュ・スタイルでのモノづくりがユニークな〈弱いロボット〉たちを生み出すコツだったようです。

とてもありがたいことに、いまでは小学校5年生の国語教科書(東京書籍)や中学校の英語教科書(光村図書)、高校の現代国語(第一学習社)や英語教科書(三省堂)などに、わたしたちの〈弱いロボット〉の話題が教材文として掲載されています。〈弱いロボット〉の不完全なところや弱さは、まわりの人の主体性や創造性を奪うことなく、むしろ引き出してくれる。お互いの主体性を奪うことなく、ゆるく依存しあう、そんなコンビビアルな(自立共生的な・共働的な)かわりを生み出す上でのキーアイデアとなっていたのです。

こうして振り返ってみると、いろいろな出会いは、その時その時の「偶然」にすぎません。でも、「あの出会いがなければ、いまここにはたどり着けなかったはず!」と、一つひとつの積み重ねが「必然」となっているのですから、とても不思議なものです。というわけで、これまでのみなさんとの(偶然ともいえる)「出会い」に感謝いたします。そしてこれからも、わたしたちの〈弱いロボット〉研究はさまざまな出会いを続けていくことでしょう。引き続き、どうぞよろしくお願ひします。



〈弱いロボット〉の数々。みなさんの推しロボットは?

## 量子情報研究室の近況報告

修士1年 甲斐 主陸

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。本稿では量子情報研究室について簡単に紹介させていただければと思います。

量子情報研究室は2023年度に新設された研究室です。博士前期課程の学生1名、学部生3名とまだまだ小さい研究室ですが、ダラルノ准教授の指導のもと日々研究に勤めています。量子情報研究室は、教授・学生の国籍が多様であり、英語、日本語、各学生の母国語など様々な言語が聞こえる国際色豊かな研究室です。定期ミーティングの場では一通り英語で説明を終えた後、わからなかったところを日本語と英語を混ぜながら質問したり、各々のひとり言は母国語だったりと少々カオスな雰囲気になったりもします。

量子情報研究室ではその名の通り、量子情報科学や量子基礎論に関連したテーマで研究を行っています。現在扱っているトピックは、signaling dimension と quantum guesswork の二つです。

Signaling dimension は量子基礎論のトピックで、一般確率論のシステムの古典シミュレーションコストや能力を議論しています。最終的には一般確率論のシステムと量子・古典システムとの比較により、量子・古典システムのみが理想的なシステムであると証明することを目的としています。

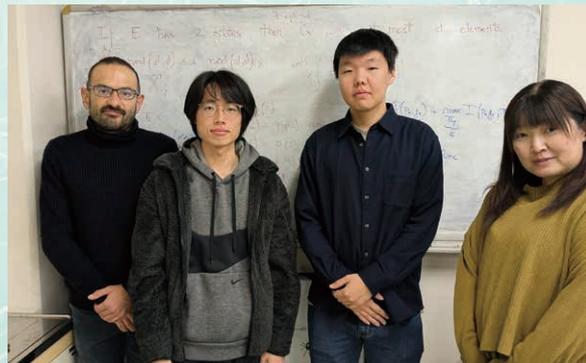
Quantum guesswork では、量子ビットに測定を行った結果を用いて、少ない質問クエリ数で入力量子状態を当てるを考えます。古典の場合では

入力の確率分布に従い確率が高い順に質問していくのが最適となりますが、量子の場合ではそうとは限りません。本トピックでは測定により最適な質問順を得ること、またその測定の構築を議論しています。

本研究室では理論的な証明以外にも、コンピューターによる各トピックのインスタンスの計算も行っています。どちらのトピックも入力が大きくなるにつれ、計算量が指数や階乗のオーダーで増えていきます。特に quantum guesswork では、その計算に NP 困難とされる二次割当問題を含んでいます。組み合わせ最適化など、量子情報の知識だけでなく古典情報の知識も活用して研究を行っているのも量子情報研究室の特徴の一つです。

研究成果の発表にも取り組んでおり、積極的に学会参加、口頭・ポスターでの発表を行っています。また、2024年の2月には国際ワークショップを主催し、今後も開催していきたいと考えています。量子情報分野の学会には物理系や数学系からの参加者が多く、普段学内では関わるできない方々との交流はとてもよい刺激になりました。

最後になりましたが、卒業生・修了生の皆様のご健勝とご活躍をお祈りしたしまして量子情報研究室の近況報告とさせていただきます。さらなる発展が期待される量子情報の分野と、豊橋技術科学大学の発展に寄与できるよう、今後も量子情報研究室全員で頑張っていきたいと思っております。



## 情報・ロボットシステム研究室の近況報告

M1 福島 知樹

情報・ロボットシステム研究室は、「ロボットを便利に、身近に、簡単に」を合言葉に、ロボット技術と情報処理を統合し、豊かな未来社会に貢献するロボットシステムの創出を目指しています。本研究室の特徴は、名称にもある「システム化」にあります。ロボット技術を単体の理論として扱うのではなく、多様な要素が組み合わさった大きなシステムの一部として捉え、自分の研究している理論がシステムのどこで役立つかを意識しながら、周辺を含む関連技術まで学べる点が特徴です。

当研究室は、2022年の4月に発足した比較的に新しい研究室で、現在教員2名（垣内教授・増沢助手）に加え、学生は博士後期課程学生2名、修士課程学生9名、学部学生5名の体制で研究活動を行っています。

研究内容については現在、大きく3つのテーマで研究を進めています。

- (1) ロボットプログラム基盤を用いた教育・研究基盤と  
ロボットシステム構築環境  
様々なロボットを同じ言語・使用方法によってプログラムできる環境を核とする「ロボットプログラム基盤」の構築を行っています。
- (2) 多自由度運動体の全体システム・運動制御・認識知能  
多数の関節をもつロボット(人間に近い身体構造をもつヒューマノイドロボットや不整地踏破能力の高い脚ロボット)の運動と知能のシステム化を研究しています。
- (3) 社会実装を志向したロボットシステム  
ホームロボットに代表される、人々の生活を豊かにする新たなロボット応用について、深層学習を活用しながら、非専門家でもロボットを便利に簡単に使えるシステムのあり方を探求しています。

研究室の雰囲気としては学生同士・教員との距離が近いのが特徴だと感じます。学年やテーマの違いに関わらず気軽に声をかけ合える空気があり、困ったことがあればすぐに相談できるため、一人で抱え込まずに研究を進められる環境です。毎週、homerobot / humanoid / 組み立てロボットの各グループミーティングと全体ミーティングを通じて進捗共有と議論を行い、新入生歓迎会や中間発表お疲れ様会などのイベントも定期的に行っています。こうした「顔の見える」つながりが、研究の推進力にもなっています。

学外とのかかわりについては、当研究室で開発したロボットシステム構築環境を教材とし、組立式ロボットを実際に構築する体験型プログラムを提供しています。とくに高等専門学校（高専）との連携を重視し、高専生向け体験実習を4年連続で受け入れており、2025年夏には11名の学生が参加しました。

同様のプログラムは、学内の研究室配属前学生向け演習としても実施しており、共通の「ロボットプログラム基盤」を通じて教育から研究へのスムーズな移行を支えています。コードや教材はGitHubや講義サイトで公開し、学外授業や共同研究にも活用できる「開かれた基盤」として発信を続けています。



## 応用化学・生命工学系の近況

系長

齊戸 美弘

卒業生・修了生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。応用化学・生命工学系の近況についてご報告いたします。

前号の同窓会報以降、応用化学・生命工学系の教員の異動はございませんが、兼務教員として本系の教育・研究に関わっていただきました、次世代半導体・センサ科学研究所 (IRES2) の有吉誠一郎准教授が2025年5月末をもって退職され、同年6月1日に富山大学教授として着任されました。有吉先生のこれまでのご貢献に心より感謝申し上げますとともに、新天地でのさらなるご活躍を祈念しております。

2025年度も前年度に引き続き、系長が小職、副系長が手老龍吾教授および原口直樹教授の2名で、応用化学・生命工学系の運営を担当しています。本系に所属する教員は、分子制御化学、分子機能化学、分子生物化学の各分野において、引き続き活発な教育・研究活動を行なっています。現在の研究室一覧および教員配置は、別表をご参照ください。

ご存知のように、本学は2026年10月で開学50周年を迎えます。本系においても、長きにわたり教育・研究にご尽力いただいた先生方が、一つの節目を迎えられます。2026年3月末には、浴俊彦先生、兼務教員の吉田祥子先生が定年を迎えられます。さらに、2027年3月末には、松本明彦先生、水嶋生智先生が定年退職される予定です。先生方のご退職は非常に大きな痛手ではありますが、教職員一丸となって新たな発展を目指して邁進してまいります。

さて、2025年11月に開催されましたホームカミングデーには、多くの卒業生・修了生の皆様にご来場いただき、誠にありがとうございました。本系においては、系の変遷のご紹介や研究室公開を行い、多くの皆様にご好評をいただきました。今後も同窓生との繋がりを大切にしつつ、教育・研究の充実を図ってまいります。

以上、応用化学・生命工学系の近況をご紹介いたしました。最新の情報は本学ホームページ (<https://www.tut.ac.jp/>) あるいは、応用化学・生命工学系ホームページ (<https://chem.tut.ac.jp/>) をご覧ください。今後とも本系教職員一同、次代を担う人材の育成と、社会に貢献する研究成果の創出を目指し、より一層努力してゆく所存です。同窓生の皆様におかれましては、本系の教育・研究活動に引き続きご支援とご鞭撻をよろしくお願いいたします。末筆ながら、皆様の益々のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

## 教職員一覧（令和7年11月現在）

### 【分子制御化学分野】

機能性界面科学研究室	松本 明彦 教授
マイクロ分離科学研究室	齊戸 美弘 教授 中神 光喜 助教
機能性高分子化学研究室	原口 直樹 教授
環境材料工学研究室	吉田 絵里 准教授

### 【分子機能化学分野】

機能触媒システム工学研究室	水嶋 生智 教授 佐藤 裕久 助教 大北 博宣 助手
反応エネルギー工学研究室	小口 達夫 准教授
高分子材料工学研究室	荒川 優樹 准教授

### 【分子生物化学分野】

分子遺伝学研究室	浴 俊彦 教授
反応性プラズマ科学研究室	高島 和則 教授
界面物理化学研究室	手老 龍吾 教授
遺伝子工学研究室	田中 照通 准教授
分子細胞生物工学研究室	栗田 弘史 准教授
ゲノム光生物学研究室	広瀬 侑 准教授

	藤澤 郁英 助手
--	----------

### 【兼務教員 (IRES<sup>2</sup> 戦略)】

次世代半導体・センサ科学研究所	有機反応化学研究室	柴富 一孝 教授
-----------------	-----------	----------

### 【兼務教員】

次世代半導体・センサ科学研究所	生体機能制御工学研究室	沼野 利佳 教授
ダイバーシティ推進センター	生命機能科学研究室	吉田 祥子 教授
学生支援統括センター	資源循環工学研究室	大門 裕之 教授
先端農業・バイオリサーチセンター	応用共生学研究室	中鉢 淳 准教授

【応用化学・生命工学系事務室】 河合 充代 (B棟) 福原 慶美 (G棟)

## 研究室だより ～多様な人々が集うラボという小さな社会で～

次世代半導体・センサ科学研究所・応用化学・生命工学系・ダイバーシティ推進センター 沼野 利佳

私は、2010年にJSTのテニュアトラックプログラムで本学に採択され、テニュアトラックとして開所したばかりのエレクトロニクス先端融合研究所にまいりました。その後、再び日本から半導体技術を世界に発信するというミッションを前面にだし、2023年に名前が次世代半導体・センサ科学研究所に改名しました。

私のバックグラウンドは、分子生物学、神経科学、時間生物学などバイオロジーですが、現在は、半導体工場で作成いたしました、髪の毛の1/100ほどの数ミクロンの細い電極を搭載した侵入型電極（豊橋プローブ）で、1神経細胞の活動を測定する応用研究もしています。疾患モデルマウスや機能を解析したい遺伝子を組み換えたマウスの脳に豊橋プローブをうめこみ、ネズミが活着している限り、測り続けるという長期計測を実施し、疾患の症状の進行を測定し、病因を探ったり、薬剤スクリーニングをしたり、機能回復させたりということを目指しています。

研究室としては、ラボの学生は、哺乳類の生物学をやりたい4系の学生さん達が所属しております。テーマは、とくに24時間の概日リズムを規定する遺伝子の機能を解析する基礎研究、豊橋プローブなどをもちいた医療応用へのアウトプットをめざす応用研究、遺伝子導入機器を開発し社会実装しようとする研究など、目的や材料、方法も様々なものから好きなテーマを選んでもらっています。

また、私がダイバーシティ推進センターにも所属しており、センターでは、大学のダイバーシティを増進する推進活動をともに遂行してもらう学生に支援を行うという支援学生制度を実施しております。現在、当ラボには、支援学生のリーダーを行っている2人を中心に現在4人の学生と、2人の学生が、現、元支援学生として携わってもらっております。最近では、女子学生のお茶会やスポーツ大会など、広く学生の親睦交流を促す活動も開催しています。

2026年11月14、15日に日本時間生物学会学術大会を、豊橋駅の近くのPLATで行いますが、その前日の11月13日にサテライトミーティングとして、センターの性差研究などの活動の報告会を実施する予定です。概日リズムの研究をしている学生はもちろん、ダイバーシティ活動の報告なども、ラボみんなで1年をかけて準備をしていくところです。

私としては、学生さん達には、テーマも、研究目的も、将来の進路も様々な人々が集うラボという小さな社会で、これからも、アドバイスをしあいながら、協力してプロジェクトをすすめたり、知識を広げたりして行ってほしいと願っています。



## 中鉢研究室の近況

応用化学・生命工学専攻 修士2年 安田 侑加

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。本稿では、応用共生学研究室の近況、日々の研究活動の様子をご紹介します。

現在、当研究室には修士2年生3名、修士1年生4名、学部4年生2名の計9名の学生が在籍しています。中鉢淳先生のご指導のもと、昆虫の細胞内にすみ、栄養や防衛物質の提供などにより昆虫の生存を支える「細胞内共生細菌」と宿主昆虫の関係性を分子レベルで明らかにする研究を進めています。

研究対象は植物の汁を吸う小型昆虫であるアブラムシやキジラミで、重要な農業害虫が含まれます。研究テーマは多岐にわたり、ゲノム編集を用いた共生関連遺伝子群の機能解析、共生細菌のゲノム進化や次世代昆虫への感染機構の探求、共生細菌が合成する活性化化合物の評価、さらに私たちが共生細菌から発見した他に類例のない微細構造の分析などに取り組んでいます。これらの研究を通じて、昆虫と共生細菌が築く精緻な関係を理解し、環境に優しい新たな害虫防除技術の開発につなげることを目指しています。また、共生細菌の代謝物の中には、大腸菌の増殖や物質生産を促進する一方で、他の細菌の増殖を抑えるという興味深い性質を持つものが見つかっており、今後の応用展開に期待が高まります。

今年度は新たに学部4年生2名と他の研究室から

合流した修士1年生2名が加わり、研究室はこれまで以上に活気づいています。異なるバックグラウンドを持つ学生が集まり、実験や解析の議論を通して刺激を受け合いながら日々研究に励んでいます。9月末には、岡崎市にある基礎生物学研究所との共同研究をきっかけに、同研究所の皆さんや富山大学・共生機能科学研究室の皆さんと交流する機会がありました。活発な意見交換を通じて研究への理解を深め、実験技能を磨くとともに、懇親会では親睦を深める楽しい時間を過ごすことができました。先生とお酒を飲むのは初めてでしたが、意外とたくさんビールを飲まれるので驚きました。

これまでの基礎研究の成果を踏まえ、今後は共生系を標的とする防除技術の開発や活性化化合物の工学応用など、研究のさらなる発展を目指します。学生一同、基礎から応用まで幅広い視点を持ちながら、共生という生物学の根幹に迫る研究を進めてまいります。

皆様におかれましては、引き続き応用共生学研究室を温かく見守っていただくと幸いです。豊橋にお越しの際は、ぜひお気軽にお立ち寄りください。研究室一同、皆様とお会いできる日を心より楽しみにしております。



## 建築・都市システム学系の近況報告

教授

齊藤 大樹

同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

現在、建築・都市システム学系の副系長を務めており、2024年度および2025年度の就職担当教員も兼任しております。系長は井上隆信教授、副系長は私と加藤茂教授が務めています。本学系では、学生一人ひとりが希望する進路に向けて適切にサポートを受けられる体制を整えており、就職担当教員への面談希望企業が年々増加しています。

建設業界全体では依然として人手不足が続いており、学生の就職状況はおおむね良好です。ほぼすべての学生が第一希望の企業に就職しており、希望すれば業界の大手企業や準大手企業に就職することも可能です。一方で、公務員を志望する学生の数は減少しており、特に土木職では定員割れの県や市が多数見られます。このような背景から、学生の就職活動は年々早期化しており、修士1年生や学部3年生は夏休みにインターンシップに参加し、その後面接を経て内々定を得るケースが増えています。また、推薦制度を復活させる企業も増えており、推薦学生は採用試験の一部が免除されるなどのメリットがあります。

2024年度の学部卒業生は59名で、そのうち大学院博士課程前期への進学者が50名、就職者が8名、その他（留学生の帰国など）が1名でした。3年生には早期に就職・進学ガイダンスを行い、大学院進学の特長や将来のキャリアの可能性について丁寧に説明することで、進学率は徐々に高まっています。博士課程前期修了生50名のうち、博士後期課程への進学は5名、就職は42名、その他3名でした。就職先としては、建設系会社が14名、コンサルタント系

会社が7名、住宅メーカーが8名のほか、公務員1名、インフラ系・設備系・鉄道系・情報系の会社への就職も見られ、学生は幅広い分野で活躍しています。

大学の講義では、コロナ禍に導入したオンライン授業システム「Google Classroom」を全講義で活用することが必須となっています。講義は基本的に対面で行われ、授業資料は紙媒体で配布せず、Google Classroomにアップロードします。学生はタブレットやノートパソコンを用いて資料を確認しながら授業を受けることが一般化しています。就職情報も同様にGoogle Classroomで提供しており、求人情報、推薦企業情報、会社紹介、インターンシップ情報などを学生がいつでも閲覧できるようにしています。この仕組みにより、学生は自分のペースで情報を取得し、計画的に進路選択を行うことが可能になっています。

2025年度の本学系の学生数は、学部174名（うち留学生7名）、大学院博士前期課程108名（うち留学生8名）、博士後期課程26名（うち留学生19名）となっています。本系の国際コースでは、通常の博士課程プログラムに加え、国際グローバル循環プログラムおよび大学教員育成プログラムの留学生も在籍しており、他の系に比べて留学生の数が多く、国際色豊かな環境が整っています。学生たちは多様なバックグラウンドを持つ仲間と切磋琢磨しながら学んでおり、学術的・社会的な視野を広げています。

教職員に関しては、2025年4月に横田久里子先生が教授に昇任し、亀屋恵三子先生が建築計画分野の准教授として着任しました。また、2025年3月には松本幸大先生が島根大学に異動しました。現在の教員体制は、教授10名、准教授8名、助教7名で、学生一人ひとりに手厚い指導が行える体制となっています。

末筆ながら、同窓生の皆様の益々のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

## 教職員 現員表

### 【建築・都市デザイン学分野】

職名	氏名
教授	齊藤 大樹（副系長）、浅野 純一郎、中澤 祥二、田島 昌樹、中森 康之（兼任）、藤田 大輔
准教授	小野 悠、亀屋 恵三子（新任）、島崎 康弘、瀧内 雄二、松井 智哉
助教	坪井 志郎、仲田 章太郎、Park Minjeong

### 【都市・地域マネジメント学分野】

職名	氏名
教授	井上 隆信（系長）、加藤 茂（副系長）、渋谷 博幸、杉木 直、宮本 弘之、横田 久里子
准教授	東海林 孝幸、豊田 将也、松尾 幸二郎、松田 達也
助教	グエン・ミン・ギョク、崔 明姫、内藤 直人

### 【両分野】

職名	氏名
技術専門職員	金田 隆文、片岡 三枝子

**建築・都市システム学系 准教授 亀屋 恵三子**

2025年4月に建築・都市システム学系の准教授に着任しました亀屋恵三子です。私は医療・福祉の建築計画を専門にしています。これまで病院、高齢者・障がい者の福祉施設の建築、難病者の福祉住環境などの研究に取り組んできました。近年では、インクルーシブ教育を目指した特別支援学校や、不登校児童のための教育環境などの研究を実践しているところです。一見すると、マイノリティーの方のための研究にもみえますが、少数派の方のための研究ではなく、どんな人でも快適に当たり前で暮らせる環境構築を目指して研究しています。どうぞよろしくお願い致します。

## 大気・熱環境システム研究室のご紹介と近況報告

博士前期課程2年 万谷 真理奈

卒業生・修了生の皆様におかれましては、それぞれのフィールドでご活躍のことと拝察いたします。大気・熱環境システム研究室の近況についてご報告させていただきます。

現在、当研究室は東海林先生のご指導のもと、博士前期課程6名、学部生5名の計11名で活動しております。昨年度と変わらず、アットホームながらも活気ある体制で研究に取り組んでいます。今年度は、取り組んでいる研究テーマが非常に多岐にわたっているのが特徴です。

当研究室では現在、大きく分けて「建築・農業」「都市熱環境」に関連する多様な研究を行っています。

まず、私たちの生活に直結する課題として取り組んでいるのが「東三河地区の熱中症の発症要因に関する研究」です。ここでは、豊橋市における救急搬送データを解析し、発症環境と搬送先の関係や、気象条件との長期的な相関を調査しています。単なる気温の影響だけでなく、地域医療の視点や、生理的なリスク要因など、複合的な視点から地域の安全を守るための知見を集積しています。

次に、私自身も取り組んでいるのが「観葉植物の活用に関する研究」です。この研究は機械工学系の高山研究室と連携し、当研究室からは2名の学生が関わっており、それぞれ異なる視点で植物の可能性を探っています。そのひとつは植物の蒸散機能を空調に応用する「機能面」の研究、もう一方は植物が健全に育つための配置計画という「空間デザイン」の研究を行っています。

この他にも、農業分野への応用として「セミクロズドハウス(半閉鎖型温室)の環境制御」をシミュレーション解析したり、資源循環の視点から「堆肥の実装化」を目指した研究であったり、さらには都市規模の「気象シミュレーション」まで、マイクロからマクロまで幅広いスケールで「環境」について研究を行っています。

今年度は、新たに配属されたメンバーを迎えて新

入生歓迎会を開催し、結束を深める良いスタートを切ることができました。また、息抜きとして学内のスポーツ大会にも参加し、研究の合間のリフレッシュとしてメンバー間の親睦を深めています。

対外的な活動においては、日頃の研究成果を広く発信するため、日本生物環境工学会の全国大会および東海・北信越支部大会に参加し、観葉植物に関する研究発表を行いました。また、福岡で開催された日本気象学会秋季大会では熱中症に関する研究成果を発表するなど、学生個々が自身のテーマを深め、学外の研究者との議論を通じて多くの刺激を受けています。

最後になりましたが、卒業生の皆様におかれましては、豊橋近郊にお越しの際はぜひ母校・研究室へお立ち寄りください。後輩一同、先輩方の貴重なお話を伺えることを楽しみにしております。末筆ながら、皆様の今後のさらなるご健勝とご多忙をお祈り申し上げます。





### 1. 定例役員会の開催

2025年11月末までに計2回の定例役員会をオンライン会議で開催しました。第1回役員会(2025年6月30日開催)では、2024年度の事業報告・収支決算報告、2025年度の事業計画・予算案、2025年度第4回豊橋技科大ホームカミングデーへの経費支援、等について話し合いました。第2回役員会(2025年11月18日開催)では、開学50周年記念に合わせた各系同窓会の開催・記念事業への寄付金協力、記念式典への海外同窓会支部の代表者の招待・旅費支援、Web名簿システムの改修、役員手当(時間給)の変更、同窓会入会・終身会費の増額、季報「技科大の顔」海外号の企画、等について話し合いました。

第3回役員会は、2025年12月～2026年3月の間に開催予定です。また、役員会議事録はホームページ上(<http://www.alumni.tut.jp/>)にて閲覧可能です。

### 2. 大学執行部との懇談会

2025年7月31日にオンライン会議にて、学長・執行部メンバーとの臨時懇談会を実施しました。大学からは若原学長代行、井上理事・副学長、山口理事・事務局長、根木総務課長、黒柳卒業生連携室室員、同窓会からは、若林会長、戸高副会長、稲田副会長(兼卒業生連携室室長)、安部副会長、日名地副会長が参加しました。第4回ホームカミングデーの企画内容、開学50周年記念事業寄附への協力、学生食堂利用経費支援、留学生ネットワーク強化および帰国留学生フォローアップ推進、等について意見交換・情報共有を行いました。

### 3. 定例総会の開催

2025年9月6日に、定例総会を現地(会場:eMCampus)とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。会則の一部改訂、2024年度の事業報告・収支決算報告、ならびに2025年度の事業計画・予算案について審議を行いました。また、第4回ホームカミングデーの開催日時・概要、各企業における同窓会組織の立ち上げ状況、等について情報共有を行いました。総会終了後には、参加者有志にて豊橋駅前に対面での懇親会を行いました。

なお、総会の配布資料と議事録は、同窓会ホームページ(<http://www.alumni.tut.jp/topics/soukai.html>)にて閲覧可能です。

### 4. 会報の発行

同窓会報第43号(本号)を2026年3月に発行し、Web名簿システムを介して同窓生の皆様に会報発行のメール周知を行いました。併せて、大学HP等を通じて、学内外の方々にも周知を行っています。

これまでと同様に、会報は電子化して同窓会ホームページ(<https://alumni.tut.jp/annualreport/index.html>)にて公開し、随時閲覧可能になっています。

### 5. 季報「技科大の顔」の発行

2023年度から新規事業として、四半期毎に季報「技科大の顔」を発行することを決定しました。毎号、各系4名×5系で合計20名、30代から60代までの様々な同窓生の方々にご執筆を依頼し、ご自身の活動や近況報告、大学や後輩へのメッセージなど、自由に述べていただいています。2023年9月に記念すべき第1号を発行して以降、2025年11月末現在で第9号までの発行を行っています。2025年度末までに第10号、第11号を発行予定で、後者は海外留学生特集号として企画しています。

季報の発行時には、Web名簿システムを介して同窓生の皆様に季報発行のメール周知を行いました。併せて、メール周知等によって、学内関係者(在学生・教職員)にも発行の周知を行っています。

季報は、同窓会ホームページ(<https://alumni.tut.jp/newsletter/>)で公開し、随時閲覧可能となっています。

## 6. 同窓会ホームページの刷新および Web 名簿システムの運用

同窓会ホームページにおいて、役員の異動等、総会・役員会の資料掲載、季報、会報の電子データの公開等の更新作業を行いました。また、Web 名簿システムにて、新会員の登録・ID/Password 発行、既登録会員の情報追加修正、会員登録方法・本人確認などの問合せ対応、同窓会・大学からの一斉メール通知（大学広報誌「天伯」、研究広報誌 TUT Research の発行、大学主催イベント等の開催案内、等）を行いました。

名簿システムを共同で管理している本学卒業生連携室による卒業・修了生情報の収集・名簿システムへの登録作業完了後に、ID/PW の新規発行と、卒業・修了生への案内メールの送付を行いました。

以上の名簿システムの管理・運用に係る一連の作業は、事務補佐員が定期的に対応するようにしています。

## 7. 同窓会会長賞

2025 年 4 月に本学大学院博士前期課程に進学した学部 4 年次成績優秀者 20 名に同窓会会長賞を授与しました（学生の選出は各系に一任）。2025 年 3 月 21 日に開催された卒業記念パーティーにて、受賞学生に若林会長から賞状・副賞を授与しました。

## 8. 学生活動への援助

大学学生課との共同で、学生活動援助を 2025 年度は 24 団体に行いました。援助を行った課外活動団体の詳細は本文をご覧ください。

## 9. 学生食堂における学生の食費支援の拡充

大学食堂の朝食について、「めざましごはんプレミアム」として、講義開講期の月曜日と金曜日の朝食経費の一部支援を実施しました。また、通年で水曜日の昼食時に提供する「同窓会カレー」の経費の一部支援を実施しました。

## 10. 懇親会、パーティー等交流活動開催の助成

本学同窓生が参加する懇親会、パーティー等の交流活動を支援しています。2025 年度に開催された懇親会 15 件（2025 年 11 月現在）に対して助成を行いました。助成した交流活動の開催報告（2024 年度中に開催したが、同窓会報第 42 号で未報告だった交流活動も含む）は本文をご覧ください。

なお、同窓生支援事業の詳細・申請方法はホームページ上（<https://alumni.tut.jp/activity/support.html>）に掲載されていますので、是非ご覧ください。

## 11. 第 4 回豊橋技術科学大学ホームカミングデイの共催

2025 年 11 月 1 日に、本学キャンパス内にて第 4 回豊橋技術科学大学ホームカミングデイを本学と共催しました。当日は若林会長より最近の同窓会活動について紹介いただくと共に、交流会開催に係る経費支援を行いました。ホームカミングデイの開催報告については、本文をご覧ください。



2024年度 豊橋技術科学大学同窓会 決算報告

会計： 松本 幸大

監査： 中澤 祥二

予算

■ 収入の部

入会金(440名×5,000)	2,200,000
会費(440名×10,000)	4,400,000
預金利息	500
新型コロナウイルス感染症対策緊急基金の残額返金	2,668,050
2024年度収入計	6,600,500
2023年度からの繰越金	47,948,922
合 計	54,549,422

決算

■ 収入の部

入会金(400名×5,000)	2,000,000	
会費(400名×10,000)	4,000,000	
預金利息	10,319	
郵便普通		6,690
銀行普通(三井住友)1		874
銀行普通(三井住友)2		2,677
銀行定期(三井住友)		78
新型コロナウイルス感染症対策緊急基金の残額返金	2,668,050	
2024年度収入計	8,678,369	
2023年度からの繰越金	47,948,922	
合 計	56,627,291	

予算

■ 支出の部

会報No.42経費	300,000
季報経費	1,000,000
役員経費	50,000
庶務経費	50,000
卒業記念パーティー援助金	250,000
学生課外活動援助金	
学生課外活動援助金(学生課を通じた例年の支援)	500,000
技科大祭特別支援	200,000
ロボコン同好会世界大会(ABUロボコン)出場特別支援	700,000
同窓生懇親会開催援助	1,000,000
各系・国内支部・海外同窓会・HCD・豊彩会等活動支援経費	500,000
同窓会Web名簿システム管理・運用費	628,680
同窓会長賞経費	420,000
「めざましごはんプレミアム」支援経費	1,300,000
「同窓会カレー」支援経費	1,200,000
予備費	500,000
2024年度支出計	8,598,680
2025年度への繰越金	45,950,742
合計	54,549,422

決算

■ 支出の部

会報No.42経費	277,400	
季報経費	514,000	
デザイン会社経費	184,000	
執筆者謝金(3-6号)(16名,大学寄附計18名)(@5千円)	170,000	
協力学生謝金(3-6号)(@1万円×16人回)	160,000	
2021~2023年度(259,700円)+2024年度(159,940円)	419,640	
役員経費	60,585	
庶務経費		
各種振込手数料	31,625	
郵便局振替口座手数料	3,850	
ロボコン同好会世界大会進出のための補助・目録印刷	4,510	
入会案内書類一式印刷費	17,600	
会計監査作業謝金(中澤先生)	3,000	
校友会・卒業記念パーティー支援	250,000	
学生課外活動援助金(学生課を通じた例年の支援)	500,000	
技科大祭特別支援	200,000	
ロボコン同好会世界大会進出のための補助	700,000	
同窓生懇親会開催援助	534,000	
建設工学系関西支部同窓会(援助)	46,000	
中村俊六先生を囲む会(援助)	38,000	
スズキ雲雀会(援助)	30,000	
中日本建設コンサルタント豊橋技術科学大(援助)	26,000	
マイクロナ機械システム研究室同窓会・懇談会・還暦祝い(援助)	40,000	
2024年度豊橋技術科学大学同窓会総会参加者懇親会(援助)	40,000	
旧1系・第2講座同窓会(援助)	20,000	
デンソー雲雀会(援助)	54,000	
建設工学6期同窓会(援助)	28,000	
1999年度4系卒同窓会(援助)	24,000	
トヨタ自動車豊橋技科大OB/OG会(援助)	48,000	
4社合同 豊橋技科大OB/OG会(援助)	40,000	
若原研同窓会(援助)	82,000	
令和6年度技科大(援助)	18,000	
各系・国内支部・海外同窓会・HCD・豊彩会等活動支援経費	0	
同窓会Web名簿システム経費	602,580	
会員管理システム利用料(2024年度の半額分(大学との折半))	328,680	
事務補佐員名簿システム管理業務補助費	273,900	
同窓会長賞経費	417,820	
賞状及び筒費	17,820	
副賞費(¥20,000×20名)	400,000	
「めざましごはんプレミアム」支援経費	2024.6~2025.2	1,200,000
「同窓会カレー」支援経費	2024.4~2025.2	943,800
10周年毎の催事用積立金	単年度で黒字のため100万円を計上	1,000,000
2024年度支出計	7,619,825	
2025年度への繰越金(A)	49,007,466	
合計	56,627,291	

※2018年2月より役員手当は1,000円/時間とし、学外から来られる同窓会役員には交通費を支払うこととした。

※2021年度より、繰越金が出た場合、100万円を上限として、10周年毎の記念催事への積立金とする。

三井住友(普通)①	2025年4月1日	24,979
三井住友(普通)②	2025年4月1日	4,179,593
三井住友(定期)	2025年4月1日	4,575,668
郵便局振替	2025年5月1日	32,396,859
郵便	2025年4月1日	10,706,265
現金	2025年4月1日	124,102
合計(B)		52,007,466

(C)目的積立金(10周年催事用積立金)	2025年4月1日	3,000,000
----------------------	-----------	-----------

検算:(A)-(B)+(C)	2025年4月1日	0
----------------	-----------	---

## 2025年度 豊橋技術科学大学同窓会 予算

### ■ 収入

項 目	金 額 (円)	
入会金(5,000円×440人)	¥2,200,000	
会費(10,000円×440人)	¥4,400,000	
預金利息	¥10,000	
2025年度収入計	¥6,610,000	
2024年度からの繰越金	¥49,007,466	
合 計	¥55,617,466	

### ■ 支出

項 目	金 額 (円)	
同窓会報No.43経費	¥300,000	
季報経費	¥840,000	
デザイン会社経費(6万円×4回)		¥240,000
執筆者謝金(5千円×4名×5系×4回)		¥400,000
協力学生謝金(10,000円/人×5系×4回)		¥200,000
役員経費(一式)	¥200,000	
庶務経費(一式)	¥50,000	
卒業記念パーティー援助金	¥250,000	
学生課外活動援助金	¥50,000	
学生課外活動援助金(学生課を通じた例年の支援)		¥500,000
同窓生懇親会開催援助	¥1,000,000	
各系・国内支部・海外同窓会・豊彩会等活動支援経費	¥500,000	
システム管理・事務経費	¥688,680	
システム管理・運用費(一式・大学と折半)		¥328,680
事務補佐員業務補助費(1200円/h×300h)		¥360,000
同窓会会長賞経費(賞状+副賞)	¥420,000	
「めざましごはんプレミアム」支援経費	¥1,300,000	
「同窓会カレー」支援経費	¥1,200,000	
困窮学生に対する支援金	¥0	
予備費	¥500,000	
目的積立金(10周年催事用積立金)	¥0	
2025年度支出	¥7,748,680	
2026年度への繰越金	¥47,868,786	
合 計	¥55,617,466	

【支払】目的積立金(10周年催事用積立金)	¥0	
【2026年度へ繰越】目的積立金(10周年催事用積立金)	¥3,000,000	
合 計	¥3,000,000	



開学 40 周年記念同窓会事業の一つとして、研究者・技術者としての今後さらなる飛躍が期待される学生を支援することを目的として、2016 年度に同窓会会長賞を新設しました。2024 年度は、2025 年 4 月に本学大学院博士前期課程に進学予定の学部 4 年次成績優秀者 20 名を表彰しました（表彰学生の選出は各系に一任）。

所属課程	表彰学生※
機械工学課程	小松 脩征、河合 剛毅、木田 博貴、吉田 京介、吉川 潤、金井 悠輔
電気・電子情報工学課程	HOANG NGOC HUNG、原 来、GOH PEI JIN、KENNY GELIANTO
情報・知能工学課程	入江 悠宇、内海 朝斐、秋田 光志朗、小濱 悠心
環境・生命工学課程	黒田 真紀、稲荷 凜平、鈴木 順成
建築・都市システム学課程	永松 孝太郎、岩佐 明直、池田 紗彩

※各課程の学生数を考慮して表彰学生数を決めているため、課程間で差があります。

また、新型コロナウイルス感染防止のため 2019 年度以来中止となっていた卒業記念パーティーも 2023 年度より再開されています。今年度も、パーティー冒頭に同窓会会長賞授与式を実施し、若林会長より各学生へ賞状と副賞が授与されました。本制度は今後も継続して実施してまいります。



若林会長と受賞学生との記念撮影



現在同窓会では、同窓会活動の活性化・効率化を目的に大学との連携強化を進めております。その一環として、2006年度より大学運営委員会の一つである学生生活委員会と共同で「課外活動活性化経費援助」を行っています。同窓会では会員の皆様のご理解、ご協力を賜りながら、今後も学生活動に対して積極的な援助を続けたいと考えています。



## おちゃのかい

機械工学課程 4年 和田 圭悟

顧問教員：情報・知能工学系 教授 鈴木 幸太郎

部員数：学部生 18名、大学院 12名

私たち茶道サークルは、日本の伝統文化である茶道を通して、礼儀作法や精神性を育むことを目的としたサークルです。週に2回、経験豊富な先生をお招きし、作法の基礎から奥深い知識まで丁寧に指導していただいています。日々の活動では、お茶とお菓子を楽しみながら、季節の移ろいを感じ、心を落ち着かせるひとときを過ごしています。

サークル内で大きいイベントは主に5つあります、サークル紹介、ふつうの茶会、技科大祭、卒業茶会です。サークル紹介では技科大内のすべてのサークルが紹介の為の展示スペースを設けており、そこにお菓子とお茶をだして茶道というものを見て感じてもらうというイベントです。ふつうの茶会はサークル内最大のイベントで、外部のお客様をお呼びして今まで学んできた茶道について成果を披露する場所です。主に修士、学部4年の方が今までの成果を外に向けて発表する場です。技科大祭は学内の文化祭であり、ここではふつうの茶会よりカジュアルなイベントで全くの新規のお客様も多く見えます。そのため、4月に入学してきた新入生たちが主体となって茶道のお点前について披露を行います。卒業茶会では、いままでお世話になってきた先輩方に御礼を差し上げる場所として在校生たちで外部のスペースをお借りして礼節を尽くす場所でございます。お茶会に参加する機会としても珍しい場所であるのでお別れと新しい旅路を祝う場所として毎年気合を入れて行っております。



## 空手道部

情報・知能工学課程 4年 青木 勇大

顧問教員：電気・電子情報工学系 教授 滝川 浩史

部員数：学部生 7名、大学院 3名

この度は、私たち空手道部にご支援いただき誠にありがとうございます。部員一同、心よりお礼申し上げます。

私たち空手道部は、毎週日曜日に活動しており、外部講師である日本空手協会三河支部代表者の平野茂広先生を招いて指導を受けております。

今年度は新たに学部生三人が加わり、部が一層活気づいたものとなりました。学部生が多く部に加わったことで部全体を活気づけてくれています。

ここ数年はコロナウイルスの流行の影響により大会への出場は見送らせていただきましたが、来年度からは大会に出場する予定で、来年度以降の大会に向かって日々練習を行っています。今年度は大会の出場を見送ったため、その分形や技の稽古に注力することができ、初心者部員も経験者部員もそれぞれのレベルにあった実力を高めることができました。

また、外部講師の紹介で社会人の経験者を招き、学生間だけでは気が緩みやすく上げにくい練習の質などを格段に向上させることができました。

これらの経験を活かし、来年度以降の各大会などでの入賞や段位所得などをしていけるよう努めてまいります。また、空手の技術だけでなく、空手道という武道を通して日本武道の精神や礼儀作法なども学び、それらを初心者の方や海外からの留学生などにも伝えられるようにより一層精進してまいりたいと思います。今後ともご支援のほどよろしく願いいたします。



# 学生活動への援助報告

Report on support for student activities



## 軽音楽部 D7sus4

建築・都市システム学課程 3年 野村 侑世

顧問教員：総合教育院 准教授 稗田 睦子

部員数：学部生 98名、大学院 34名

軽音楽部 D7sus4 は、部員たちが各自の担当楽器を持ち寄り、ギター、ベース、ドラム、キーボード、ボーカルなどで構成されるバンドを編成します。バンド活動を通じて、メンバー間のコミュニケーションや協力の大切さを学びながら、技術力の向上を目指します。

この課外活動活性化経費で購入させていただいた PA ミキサーは、写真のように学内ライブイベントを開催する際に使用しています。新しい PA ミキサーを購入したことで音量バランス等をプリセットで保存することができ、本番前のリハーサル時間を短縮することができました。また、音を PA ミキサー画面で正確に確認できることにより、より精度の高いミキシングが可能になったことでより良い音響を作ることが可能になりました。軽音楽部では、最大のイベントである、学園祭やコモンズで行われる定期的なイベントライブがあり、これが部員たちにとっての大きな目標となります。ライブでは、日々の部室での練習の成果を披露し、部員同士で楽しむことに全力を尽くします。この経験は、部員たちにとって貴重な舞台経験となり、緊張感の中で演奏する力や、チームとしての一体感を深めることができます。

このように、軽音楽部は音楽を楽しみながら、自身の成長や仲間との絆を深められる充実した活動を提供しています。これからも軽音楽部をより盛り上げていくよう精進します。今後ともよろしくお願いいたします。



## 音楽技術部

情報・知能工学課程 3年 野花 風雅

顧問教員：機械工学系 教授 戸高 義一

部員数：学部生 47名、大学院 17名

この度は、音楽技術部にご支援をいただき、ありがとうございます。部員一同、深く感謝申し上げます。このご支援により、私たちの活動をより充実させることができました。

音楽技術部は、DJ や DTM などを通して、音楽の魅力を伝える活動を行っております。その手段として、おおむね 2カ月に 1 回の頻度で学内の音楽イベントを開催し、DJ パフォーマンスを行っております。そのイベントでは、パフォーマンスをより一層盛り上げるために、映像や照明、音響を効果的に用いて、臨場感のある空間を作り上げています。また、それらの機材や DJ 機材などを一括で管理するためのネットワークの構築も行っております。このような環境で、「音楽」と「技術」を融合することにより、レベルの高い音楽体験を生み出すことを目指しております。

今回ご支援いただいた経費を用いまして、ノートパソコンを購入いたしました。高性能なノートパソコンを導入したことにより、イベント用の映像パフォーマンスを部員の誰もがが行えるようになりました。私物のパソコンでは性能が足りず、断念していた部員も存在していましたので、より多くの活動に踏み込めるようになりました。

ご支援により、部員が自身の負担を気にすることなく、多くのことに挑戦できるような環境をさらに整えることができました。今後も多くの部員が自分のやってみたいことを、気軽に楽しむことができる環境を作っていきます。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



# 学生活動への援助報告

Report on support for student activities



## Jazz研究会

情報・知能工学課程 3年 服部 薫

顧問教員: 情報・知能工学系 教授 三浦 純

部員数: 学部生 46名、大学院 22名

この度は我々 Jazz 研究会にご支援いただき誠にありがとうございます。部員一同、心より御礼申し上げます。

本サークルはジャズをはじめとした様々な音楽を通じて演奏や鑑賞を楽しむサークルです。今年度は新入生歓迎会や技科大祭、部内ライブなどを実施しました。他にも天伯原記念式典での演奏や、愛知大学(豊橋キャンパス)モダンジャズ研究会様を交えたセッション会の開催、理論講習会の実施など、とても充実した活動ができています。また、学外にて演奏する機会が増えたことにより部員の向上心も増してきており、日々切磋琢磨してジャズの知識や楽器演奏の技術を習得しています。今年度も新入生が非常に多く入部したこともあり、先輩による楽器の演奏指導や、楽譜の読み方等の指導、また演奏曲の幅を広げるための Jazz を聞く会の開催など、初心者に寄り添った活動も精力的に行っております。

我々はこの度いただいたご支援により、ソプラノサクスを購入させていただきました。ソプラノサクスは明るく澄んだ音色で、メロディラインを際立たせることができる楽器です。これまでのサウンドに新たな彩りが加わり、より表現力豊かな演奏が可能になりました。実際の演奏では、ソプラノサクスの繊細な響きがバンド全体の雰囲気を引き締め、演奏の幅を大きく広げています。

今後はセッション会や学期ごとの講習会を定期的に開催することで、ジャズやその他の音楽により深く触れられる環境を作っていく所存でございます。また、ジャズについての知識を深めるとともに、様々な音楽の魅力をたくさんの人と共有できるよう努力してまいります。この度はありがとうございました。今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。



## 豊橋日曜学校

電気・電子情報工学課程 3年 正中 佑弥

顧問教員: 建築・都市システム学系 教授 渋澤 博幸

部員数: 学部生 36名、大学院 18名

この度は、私たち豊橋日曜学校をご支援いただき、誠にありがとうございます。部員一同、心より御礼申し上げます。

私たち豊橋日曜学校は、月に一度、知的障がいを持った子どもたちとふれあうことで、子どもたちに様々な経験をしてもらおうことを目的として活動しているボランティアサークルです。毎月ごとにテーマを考え、テーマに沿った工作やゲームなどを行っています。また、その月々によって季節に沿った行事やイベントをたくさん企画することで、子どもたちにより楽しんでもらえるように工夫をしています。今年のキャンプは台風直撃のため、残念ながら中止になってしまったので、来年こそは実施できるように準備を進めていきたいと思っております。また、今年から愛知大学以外にもいろいろな施設で活動を行っているため、この調子でコロナ前の革新的な続けていけるよう、頑張っていく所存です。

今年は技科大から12人の新入生が入部してくれ、現在技科大の学生は学部生27名、大学院生8名が在籍しています。

今回ご支援いただいた課外活動活性化経費は、7月イベントでの湖西アメニティプラザ等の移動費や毎月の活動当日やその準備で使用する資料・物品作成用のプリンタのインク、その他備品・消耗品の費用に充てさせていただきました。

今回のご支援、そして多くの方々の支えを忘れず、皆様のご期待に添うべく精一杯活動してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。





## バドミントン部

建築・都市システム学課程 4年 遠藤 蒼太

顧問教員: 情報・知能工学系 准教授 菅谷 保之

部員数: 学部生 64名、大学院 17名

豊橋技術科学大学バドミントン部は、週3回の活動を通して、バドミントンを楽しみ、技術の向上を目指す部活動です。部員はそれぞれの目的に応じて活動しており、リーグや大会での成績向上を目指して真剣に練習に取り組むメンバーから、体を動かしながら交流を楽しむメンバーまで、幅広い層が共に汗を流しています。初心者から経験者、留学生まで誰もが参加しやすく、互いに教え合いながら練習できる環境づくりを大切にしています。

現在、男子チームは豊橋バドミントンリーグの男子3部に所属しており、さらなる上位進出と2部昇格を目指して練習に励んでいます。また、今年度からは部員数が大きく増加し、新チームも結成されました。新旧のメンバーが互いに刺激し合いながら練習を重ね、より高いレベルを目指して日々切磋琢磨しています。さらに、豊橋外の大会にも積極的に参加しており、今年度の東国体では上位4校に入るという大きな成果を収めることができました。こうした成果は、部員一人ひとりの努力と、仲間同士の支え合いの賜物だと感じています。

今回、課外活動活性化経費によるご支援をいただいたことで、シャトルや用具の補充など、練習環境の充実に大きくつなげることができました。より良い環境のもとで練習に集中できたことが、部の活気や成績向上にも結びついています。ご支援に心より感謝申し上げます。今後もこの支援を糧に、部員一人ひとりが成長を重ね、チームとしてさらなる成果を目指してまいります。



## ボランティア部

機械工学専攻 1年 佐々木 直音

顧問教員: 情報・知能工学系 教授 松井 淑恵

部員数: 学部生 80名、大学院 18名

この度はボランティア部にご支援いただき誠にありがとうございます。部員一同心より御礼申し上げます。

幣部では清掃活動と献血推進活動の二つを軸として日々地域貢献を目標として活動に取り組んでいます。清掃活動はキャンパス内の清掃のほか、「BEACH CLEAN」と名付けた海岸清掃活動を行っています。豊橋市南部の海岸のゴミ活動を通じて景観保護に取り組んでいます。また献血推進活動においては、若年層への献血推進を目的として設立された日本赤十字社の愛知県学生献血連盟に加入し、献血の呼びかけのほか、企業訪問等を行っています。その他の活動としましては天伯地区の合同防災訓練への参加、各種イベントへのボランティアの参加を通じて地域との交流も深めながら活動しています。

この度いただいた経費はBEACHCLEAN用の清掃用具一式の購入費用に充てさせていただきました。清掃活動としての規模を拡大していくにあたって必要となるトンダや軍手、ゴム手袋のほか、用具の運搬に利用するキャリーカートが購入でき、より快適な清掃活動の環境を作ることができました。

私たちがこのように活動を続けることができているのは皆さまのご支援のおかげです。今回ご支援いただいた物品を今後とも有効に活用すると同時に、さらに活動の幅を広げより良い街づくりに少しでも貢献できるように尽力してまいります。引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。





## 国際交流クラブ

情報・知能工学課程 4年 鈴村 日奈子

顧問教員：学生支援統括センター 教授 大門 裕之

部員数：学部生 52名、大学院 22名

この度は、国際交流クラブにご支援を頂き誠にありがとうございます。サークル一同、心より御礼申し上げます。

私たち国際交流クラブは、留学生と日本人学生の交流を目的に活動しています。言語や文化の違いを越えて、お互いを理解し合える場をつくることを大切にしながら、学内外でさまざまな交流イベントを行ってきました。

学内では、週1回の「J-Talk」を開催しています。これは大学内の留学生と日本人学生が気軽に参加できる交流イベントで、毎回テーマを変えて英会話や文化紹介、ゲームなどを行っています。留学生にとっては日本語を練習できる場に、日本人学生にとっては英語や異文化に触れられる貴重な機会となっています。お互いの言語を教え合ったり、母国の習慣や食文化について話したりすることで、自然と笑顔が生まれる時間になりました。

また、月1回は豊橋市役所と協力し、市民と留学生の交流を目的とした「Global Lounge」に参加しています。ここでは、市民の方々と留学生が英語や日本語で会話しながら文化交流を楽しみ、地域ぐるみで国際理解を深める活動を続けています。学生だけでなく、地域の方々にも国際交流を身近に感じてもらえる機会となっています。

さらに、語学学校である中部ランゲージアカデミーの生徒との交流会も実施しました。また、豊橋花火大会では留学生の引率を行い、日本の伝統行事を楽しんでもらうサポートをしました。

今後も、学内外のさまざまな人々とつながりながら、国際的な交流をさらに広げていきたいと考えています。



## バスケットボール部

情報・知能工学専攻 1年 峰野 侑也

顧問教員：建築・都市システム学系 教授 杉木 直

部員数：学部生 23名、大学院 12名

この度はバスケットボール部をご支援いただき誠にありがとうございます。私たちバスケットボール部はバスケットボールを通じて学生間や他大学との親睦を深めるとともに、各大会において優秀な成績を収めることを目標に日々の活動を行っています。

活動は、月曜日、水曜日、金曜日に行っており、バスケットボールが好きな仲間と楽しみつつ切磋琢磨して練習しています。基本的には実践形式の練習をメインとしていますが、大会が近づくと、セットプレーやチームのルールの確認などのより試合を意識した練習も増やし、大会に向けてチーム全体で意識を高めています。バスケットボール部は東海地区国立体育大会や東三河バスケットボール協会が主催しているラ・ヴィ杯バスケットボール大会に参加しています。今年の東国体は私たちが主催校でした。大会運営を経験したことのある学生ははじめてでしたが、学生同士協力し合うことで滞りなく大会を終えることができました。また、大会の成績としても、3位入賞を果たすことができ、チームとしての成長を感じられました。今回のご支援そして多くの方々の支えを忘れず、皆様のご期待に添うべく精一杯活動してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



# 学生活動への援助報告

Report on support for student activities



## 留学生スポーツクラブ

情報・知能工学課程 2年 NGUYEN HUU MINH

顧問教員：機械工学系 准教授 竹市 嘉紀

部員数：学部生 30名、大学院 17名

こんにちは！留学生スポーツクラブです。

この度は、課外活動活性化経費のご支援をいただき、心より感謝申し上げます。私たちは豊橋技科大学の留学生同士で構成されたクラブで、スポーツを通じて仲間との絆を深め、異文化交流を楽しみながら、充実した学生生活を送っています。

今年度は、サッカー・卓球・バドミントンなどのスポーツ活動を中心に、BBQやキャンプなどのアウトドアイベントも開催しました。自然の中で過ごす時間は、学業や研究の疲れを癒し、心身ともにリフレッシュできる貴重な機会となりました。また、異なる文化背景を持つメンバー同士が交流することで、国際的な視野が広がり、互いの理解も深まりました。

大学からの支援があったからこそ、これらの活動を安全かつ効果的に実施することができました。設備や機材の充実により、限られた予算でも満足度の高い活動が可能となり、メンバー全員が笑顔で参加できています。

来年度に向けて、さらにクラブを盛り上げるための提案もあります。新しいスポーツ種目の導入により、より多くの学生の興味を引き、参加の幅を広げたいと考えています。また、SNSやポスターを活用した広報活動を強化し、クラブの魅力を学内外に発信していきます。さらに、メンバーの声を集めて活動計画に反映させることで、より充実したクラブ運営を目指します。今後も、若さとエネルギーを武器に、留学生ならではの視点で活動を展開していきますので、引き続きご支援のほどよろしく願いいたします！



## アニメーション&コミック研究会

情報・知能工学課程 4年 本多 幹也

顧問教員：情報・知能工学系 准教授 佐藤 幸紀

部員数：学部生 37名、大学院 12名

この度はアニメーション&コミック研究会の活動にご支援いただきまして、部員一同心より感謝申し上げます。ご支援いただける皆様のおかげで昨年度よりも精力的に活動を行うことができたこと併せて御礼申し上げます。

我々、アニメーション&コミック研究会は主にイラスト制作を行い、多くの人に我々の作品を届けることを目的に活動を行っています。普段の活動では、初心者の人向けのイラスト講座や作品制作における考え方やアイデアの出し方などを行う勉強会や参考になる作品等の情報交換会、自分が描いたイラストを見せ合う鑑賞会を行っています。今年度は新入部員が多く入部してくれたことも相まって部員たちのやる気も高まっていたように感じました。そして、これらの日々の活動を通じて作成した部員たちの作品をまとめて製本した同人誌をCOMITIAなどのイベントにて販売を行っております。昨年度は1度しかイベントに参加することができませんでしたが、今年度はご支援いただいたことにより計3回のイベントに参加することができました。そして、今までにないくらい多くの方に我々の作品を手にとっていただくことができ、今後の作品制作に生かせるような気付きや学びも得ることができました。

今回ご支援いただいたことにより、昨年度よりも精力的に活動を行うことができました。ご支援いただいた多くの方々のご期待にお応えできるように来年度以降も全力で取り組んでいきたいと思っております。今後ともご支援ご協力のほどよろしく願い申し上げます。



# 学生活動への援助報告

Report on support for student activities



## 吹奏楽団

機械工学課程 4年 森川 アンセル 幹雄

顧問教員：総合教育院 教授 岡田 浩

部員数：学部生 35名、大学院 24名

私たち吹奏楽団は、現在 59 名の団員で活動しています。団員は初心者から経験者まで幅広く、全員で一丸となり、音楽を通して仲間との絆を深めています。私たちは、『地域に根差す団』を目標に掲げており、そのため、地域の皆さまと音楽で交流を図ることを大切にしています。

今年度も多くのイベントに参加しました。6月には天伯小学校での依頼演奏や愛知大学吹奏楽団との合同演奏会、7月には、駅前で「たなばたコンサート」を開催しました。

10月には、第41回定期演奏会を開催しました。今回の定期演奏会では、昨年度よりも多くの人たちに来場して頂いた中で、60人に迫る人数が織りなす迫力と感動のある演奏をお届けすることができ、大成功を収めました。

今回のご支援により購入させて頂きました折り畳み譜面台およびコントラバスは、昨年から10名以上増加した弊社が活動していく上での貴重な助けとなりました。今年度を迎えた当初は譜面台の数に限界が見えており、団員の増加に対応できるのかという点で懸念があったのですが、今回のご支援のおかげで、9月の体育館練習において本番と同様に一人一台の譜面台を配置した練習ができました。また、今年度はコントラバス経験者が入団していたのですが、ご支援のおかげで担当の楽器を割り当てるのが出来、ノウハウを途絶えさせずに継承する事が出来ました。

今後も『地域に根差す団』として、音楽を通じて地域社会に貢献し、さらなる成長を目指して活動を続けていきます。応援よろしくお願いたします。



## 水泳部

応用化学・生命工学課程 3年 伊藤 颯

顧問教員：機械工学系 准教授 竹市 嘉紀

部員数：学部生 15名、大学院 2名

今年度も、昨年度同様に活性化経費による支援を頂き、感謝申し上げます。今年度の水泳部の活動は、支援を頂きました経費を利用させていただき、りすば豊橋プールにて週2回の部活動を実施しています。従来は、りすば豊橋の利用券が少なかったりなどの影響から、固定の曜日のみで合同練習のみで活動を行っていました。しかし、今までの活動内容では、授業の有無やその時の課題の進捗、バイトなどの課外活動に制約され、満足して泳げない学生が多数見受けられました。今年度は、その課題を解決するために、部活動を1人あたり週2回での制約は変えずとも、りすばに行く日時は問わないという体制に変え、時たまに合同練習を行うという形態へ変更しました。変更後は、部活の参加率が急増したのはもちろんのこと、周りの一般利用客の皆様にもあまり迷惑をかけずに利用することができ、一石二鳥であったと考えられます（合同練習を行うと、コースの占領のような形になってしまうため）。以上の理由より、今回頂きました経費は、我々のためだけでなく、りすば利用客の方にも技科大水泳部の練習マナーを認めて頂き、大会などでも声をかけていただいたりしていることから、大学の名誉向上にもつながっていると考えられます。

加えて、練習の自由度が増した現在、大会への出場を考えている学生も増えてきてまいりました。今年度はまだ出場がないのですが、12月に浜松市で行われる大会を皮切りに、数々の大会への出場を考えている学生が多数います。また、マスターズ水泳に興味を持っている学生もいるため、マスターズチームの設立も視野に入れ、活動しております。





## TUTものづくりサークル

機械工学課程 4年 四家 綾真

顧問教員：機械工学系 准教授 佐野 滋則

部員数：学部生 20名、大学院 20名

この度は TUT ものづくりサークルへご支援を賜り、誠にありがとうございます。皆さまからいただいた支援金は、弊サークルが保有する CNC フライス向けのオプション部品「引きネジ型コレットチャック式スピンドル」の購入に充てさせていただきました。

この部品は、エンドミルという切削工具を高精度に保持するためのものであり、取り付け精度の向上によって切削面が非常に滑らかになりました。また、剛性が高まったことで、これまで困難であった高負荷の加工も安定して行えるようになり、ものづくりの幅が大きく広がりました。

弊サークルは、部員が自由にものづくりを楽しめるスペースとして活動しており、3D プリンタを用いた小さな家具の製作や、電子工作によるスピーカーユニット、小型二足歩行ロボットの開発など、幅広いテーマに挑戦しています。近年では、NicoTech や Maker Faire といったメイカー系イベントにも参加し、他のクリエイターの方々と交流しながら技術と発想を磨いております。

また、今年のキャチロボでは弊サークル名義で出場した二つのチームがそれぞれ1位と2位に入賞するという快挙を達成し、競技分野でも高い成果を上げることができました。

今後も学内外のメイカーの皆さまと交流を深めながら、私たちらしい自由で挑戦的なものづくりを続けてまいります。引き続き、温かいご支援とご声援のほどよろしくお願いいたします。



## コンピュータクラブ

情報・知能工学課程 4年 松尾 慧一

顧問教員：情報・知能工学系 教授 土屋 雅稔

部員数：学部生 43名、大学院 6名

この度は我々コンピュータクラブへご支援いただきまして、誠にありがとうございます。部員一同、心より御礼申し上げます。

コンピュータクラブでは部員の興味・関心に沿い、ゲーム班、インフラ班、Web 班、TechLab 班など分野ごとに分かれ、活動を行っています。

今年度は LT 会や講習会を開催し、製作物を新入生歓迎会や技科大祭で展示しました。展示では、部員が作成したゲームやアプリを紹介し、たくさんの方々に触っていただいたり、様々な目線から貴重なご意見をいただいたりしました。特に、学内の他サークルに提供した会計システムは技科大祭でのオペレーションの効率化や待ち時間の表示など、実用に足るシステムを運用することができました。このように、実際にフィードバックを得ることでさらに技術力やシステムの質を上げることを目指しています。また、夏のコミックマーケットにて部誌を頒布し、他サークルとの交流も行いました。技術系の団体が多く集まるイベントで、新たな技術や興味深い内容で大変良い刺激を受けることができました。

今回のご支援により、Mac mini M4 と PC モニタ 2 枚を購入させていただきました。Mac mini は iOS でのアプリやシステムの開発に、モニタは部で長年使用し、消耗していた物品を更新する形で使用させていただきます。これにより部内の開発環境をより快適にし、活動のさらなる活発化を目指していきます。今後とも応援のほど、よろしくお願い申し上げます。



# 学生活動への援助報告

Report on support for student activities



## 総合文化部

建築・都市システム学課程 4年 向井 太洋

顧問教員: 機械工学系 教授 戸高 義一

部員数: 学部生 141名、大学院 15名

この度は、課外活動活性化経費を通して総合文化部にご支援いただき誠にありがとうございます。部員一同、心より御礼申し上げます。総合文化部は現在、レゴ部門と喫茶部門と地理旅行部門の3つの部門で活動を行っています。

レゴ部門は、主に子ども向けのレゴ教室の開催や、作品展示、制作を行っています。最近では全国の学生レゴ部による合同展示会に参加したり、日本アイ・ピー・エム株式会社や TE Connectivity Japan 合同会社がイベントで展示する作品を制作したりしました。

喫茶部門は、「紅茶とコーヒーをより美味しく手軽に、楽しむ」ことを目標に活動しております。今年度は、学内外問わず多くのイベントに参加し、エキセントリックコーヒーロスターさんのご協力のもとコーヒーの焙煎を実施することができました。

地理旅行部門は、ゲーム・クイズ企画や旅行企画などを通じて、楽しく地理学や都市工学、地球科学などに触れ、学ぶことを目標にしています。設立初年度の今年度は、静岡市でのフィールドワークや、全国地理学系サークル連合会例会への参加など、全国各地で活動しています。

我々は、この度のご支援により、エスプレッソマシンを購入いたしました。喫茶部門では、ラテアートを精力的に行っております。全員が初心者から研鑽を積み、現在ではカフェで提供されているものと遜色ない程度まで技術が向上しました。今年度の技科大祭で喫茶部門は紅茶・コーヒーに加えてラテアートも販売し、多くのお客様からお褒めの言葉を頂くことができました。さらなる技術向上に努めてまいります。これからも応援とご支援のほどよろしくお願いいたします。



## 自動車研究部

機械工学課程 3年 前田 彩予

顧問教員: 機械工学系 准教授 安井 利明

部員数: 学部生 15名、大学院 2名

豊橋技術科学大学同窓会の皆様、このたびは自動車研究部に多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございました。

自動車研究部は「学生フォーミュラ大会」を通じて技術者を育成することを目的とし、車輛の設計・製作に加え、資金調達・広報といった運営も学生が主体となっています。

今年度は車輛の安全性を証明する書類 (SES) で基準を満たすことができず、残念ながら大会への出場は叶いませんでした。

大会期間中は会場に車輛を持ち込み、他大学の車輛・審査の様子の見学や審査委員の方々から直接フィードバックを受けるなど、来年度にむけての改良点を明確にする貴重な経験を得ることができました。

現地で感じた悔しさと刺激は、何よりも大きな財産です。大会会場で走る他大学の車輛を見て「来年こそ自分たちの車輛をここで走らせたい」と心の底から思いました。今はその想いを原動力に、運営体制の見直しや車輛設計への理解を深め、次年度に向けた準備を進めています。

大会で出走できなかった一年ではありますが、確実に前へ進んでいます。仲間と共に悩み、支え合い、小さな前進が形になる日々の中に、ものづくりの本当の面白さを感じています。来年こそ自分たちの手で作り上げた車輛をコースに送り出せるよう、全力で取り組んでいきます。

最後に、このたびは私たちの活動にご支援いただき改めてお礼申し上げます。今後も精進して参りますので引き続きのご支援よろしくお願いいたします。



# 学生活動への援助報告

Report on support for student activities



## 軟式野球部

電気・電子情報工学課程 4年 岩村 直温

顧問教員：電気・電子情報工学系 教授 澤田 和明

部員数：学部生 21名、大学院 14名

この度は課外活動活性化経費としまして、軟式野球部をご支援いただき誠にありがとうございます。私たち軟式野球部は野球を通じて学生間や他のチームとの親睦を深めるとともに、楽しみながらも各大会で優秀な成績を収めることを目標に日々の活動を行っています。

活動日は、主に木曜日と日曜日としており、木曜日では練習を行い、日曜日に試合をする形となっております。練習内容としましては、基礎的な練習から、試合に近いような練習を行っております。日曜日は、勝ち進むと毎週のように試合が続く期間が長いですが、試合がない週は練習試合を組むことで、毎週試合をすることを心がけています。今年度は、東海地区国立大学体育大会準硬式野球で、浜松球場で開催され、その運営等に参加し、その他の大会は、豊橋野球協会が主催する大会に参加しています。実施したのも含めて、4つの大会に参加予定です。

今回いただいた課外活動活性化経費はボール、バットの購入に充てさせていただきました。ボールに関しては、現在使用しているボールの経年劣化により、使用できるボールが不足していたため、購入を希望しました。また、バットについても同様、経年劣化により、使用できるバットが不足していたため、購入を希望しました。今回の課外活動活性化経費の支援のおかげで、充実した練習、試合を行うことができるようになりました。

ご支援していただいたこと、多くの方々の支えを忘れず、皆様のご期待に添うべく精一杯活動してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



## 技科大祭実行委員会

応用化学・生命工学課程 4年 工藤 寛太

顧問教員：機械工学系 教授 柴田 隆行

部員数：学部生 136名、大学院 0名

この度は、技科大祭実行委員会にご支援いただきありがとうございます。いただいた経費はロータリーおよびステージの大型看板の資材、ロータリー看板を設置するための足場の設置などに充てさせていただきました。

技科大祭実行委員は学部生のみで構成された団体で、毎年学生課と協力して技科大祭の運営を行っています。

今年度の技科大祭はテーマを「繋ぐ」とし、大盛況を収めた昨年の技科大祭から今年度へ、また来年以降の後輩たちへ歴史をつなぐこと、また近隣の地域の方々も巻き込み、交流の場として地域と大学を繋ぐことを目標として活動してきました。地域交流を目標として今年度新しく取り入れた試みとして、本学初の花火の打ち上げを行いました。また、市内の商業施設や小学校でチラシを配布し、告知活動を行いました。

技科大祭は2日間を通してあいにくの雨でしたが、昨年度を上回る来場者数を記録し、ステージ発表の目玉であるお笑いライブや、今年度初の試みである花火の打ち上げは特にたくさんの人にご覧いただき、大きな盛り上がりを見せました。

このように新しいことに挑戦しながら活動を行うことができるのも皆様のご支援のおかげです。今後もより良い技科大祭の開催のため、実行委員一同、全力で取り組んでまいりますので、ご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。





## 模型部

電気・電子情報工学課程 4年 長嶺 優人

顧問教員: 情報・知能工学系 准教授 菅谷 保之

部員数: 学部生 18名、大学院 0名

この度は、私たち模型部(TUT)をご支援いただき誠にありがとうございます。部員一同心よりお礼申し上げます。

私たちは週に一度対面で活動しており、お互いに情報交換や作品製作を行い、スキルや知見を高めております。それだけにとどまらず活動日以外も各々が個人の環境での活動や、SNSでの発信を通し、イメージを形にするため日夜模型の製作に取り組んでおります。

技科大祭では、一年間の集大成として部員の製作した作品の展示を行い、来場者向けの製作体験会を開きました。特に製作体験会用の模型は、昨今の原価高騰から数を揃えることが難しく、活性化経費で購入させていただき大変感謝しております。近年の少子高齢化の例にもれず、模型人口は年々減少の一途をたどっております。小学生を中心に大変なご好評をいただき、模型を好きになってくれた方が大勢いらっしゃいました。私たちの活動が、模型の楽しさを伝え、模型の文化を将来に伝える一助になることを祈っております。

今回のご支援が多くの方々の支えによって成り立っていることを心に刻み、皆様のご期待に応えるべく精一杯活動してまいりますので、今後ともご指導ご支援のほどどうぞよろしくお願ひ申し上げます。





本学同窓生が参加する懇親会、パーティー等の交流活動を支援しています。同窓会正会員が10名以上参加したイベントに対して、一人2,000円を上限に助成しております。2024年度は14件、2025年度は2025年12月までに17件に対して助成を行いました。コロナ禍等により飲食を伴う懇親会の開催が困難となった場合、オンライン形式でのイベント開催についてもオンライン会場使用料などを助成対象としております。同窓生支援事業の詳細・申請方法は同窓会ホームページ (<https://alumni.tut.jp/activity/support.html>) に掲載されていますので、是非ご覧ください。

## トヨタ自動車 豊橋技科大OB/OG会 新人歓迎会

### 開催概要

実施日	令和6年6月21日
開催場所	キャプテンジョーカーズ
出席者数	25名（内本学卒業・修了生25名）



### 申請者からのコメント

2010年度 修了 熊谷 匡明

トヨタ自動車（株）では、「雲雀会」という名称で豊橋技科大を卒業した社員によるOB・OG会を設立しています。例年 新入社員の歓迎会を実施していますが、ここ数年はコロナ禍の影響もあり開催を中断していました。23年になりコロナ禍も緩和されてきた状況から、6月21日に25名参加による「雲雀会 新人歓迎会」を開催しました。今年入社された新人の自己紹介や、最近の大学の近況報告に始まり、久しぶりにまた初めて会う会員との親睦を深め、有意義なOB/OG会となりました。来年度以降も継続して「雲雀会」を盛り上げていきたいと思っております。

## 1999年度4系卒同窓会@名古屋

### 開催概要

実施日	令和6年11月23日
開催場所	箱屋 名古屋駅前店
出席者数	12名（内本学卒業・修了生12名）



### 申請者からのコメント

2004年度 修了 齊藤 剛史

1999年度4系卒では、FacebookやLINEなどを通じて交流していました。数年に1回、数名で集まることはありました。今回、年齢的に公私共に落ち着いていることを期待して、8月下旬に同窓会を企画しました。開催日は11/23（土）、開催場所は集まりやすい名古屋として呼びかけ12名（愛知4名、神奈川3名、静岡1名、大阪1名、長野1名、東京1名、福岡1名）が集まりました。卒業後24年ぶりに再会した友人もあり、技科大で過ごした日々や近況など話題に堪えない時間を過ごしました。さらに有志5名は翌24（日）に技科大キャンパス内を散策しました。

次回は1年後、次々回は2年後（50歳）の開催を企画したいと考えています。交流のある皆さんは今回の参加メンバーに連絡をお願いします。FacebookやLINEで繋がりましょう。



## 4社合同 豊橋技科大OB/OG会

### 開催概要

実施日	令和6年11月10日
開催場所	刈谷プラザホテル
出席者数	54名（内本学卒業・修了生54名）



### 申請者からのコメント

2010年度 修了 熊谷 匡明

トヨタ、スズキ、デンソー、豊田中研ではそれぞれにOB・OG会「雲雀会」があり、各社単独での親睦会を開催しております。この度、4社の「雲雀会」と親交のあるOBの協力のもと、「4社合同雲雀会」を開催することができました。結果として53名が集まり、他社に行った同期との久しぶりの再会や初めて会う会員との親睦を深めるなど、有意義なOB・OG会となりました。また、式中には、①1期生のOBより「大学が更地から完成するまで」、②ロボコン部創業時のOBより「ロボコンのこれまでの活躍」、③NHK「魔改造の夜」への出場についてなど、多岐にわたるプレゼンが行われ、在学中から会社に入ってから活躍を知る良い機会となりました。今後も継続して雲雀会を盛り上げていきたいと思っております。

## 若原研同窓会

### 開催概要

実施日	令和7年3月1日
開催場所	華乃井テラス
出席者数	52名（内本学卒業・修了生38名）



### 申請者からのコメント

2010年度 修了 山根 啓輔

若原先生の学長就任をお祝いし、若原研究室の同窓会を豊橋駅前の華乃井テラスで2025年3月1日（土）に開催しました。懐かしい思い出を語り合い、研究や仕事の近況を共有しながら、和やかな時間を過ごしました。お忙しい中ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。次回の開催については現在調整中ですが、できるだけ多くの方にご参加いただけるよう企画したいと考えております。詳細が決まり次第お知らせいたしますので、ぜひご期待ください。研究室のつながりは、卒業後も貴重な財産です。次回も多くの方とお会いできることを楽しみにしております。



## 令和6年度技科大大会

### 開催概要

実施日	令和7年3月27日
開催場所	個室 貸切居酒屋 地鶏坊主 本店
出席者数	10名（内本学卒業・修了生10名）



### 申請者からのコメント

1990年度 修了 丸井 良修

建設工学課程1985年度1年次入学&1987年度3年次入学の有志で同窓会を年1回程度開催しています。参加メンバーは愛知県とその周辺に居住する者が中心ですが、東北地方や九州地方など遠方の同期が名古屋など近隣に立ち寄られた時は、その機会に開催したりもしています。民間企業、公務員、立場は違えど同じ業界で働く仲間同士、楽しく交流を深めています。同期の皆さん、興味がありましたらご一報ください。

## 建設工学系関西支部同窓会

### 開催概要

実施日	令和7年4月12日
開催場所	ニューオーサカホテル（中華料理 アダスタム）
出席者数	23名（内本学卒業・修了生19名）



### 申請者からのコメント

2008年度 修了 奥村 和皓

去る4月12日（土）に建設系の関西支部懇親会を昨年と同じニューオーサカホテルで開催しました。関西はもとより、鹿児島など遠方から19名の卒業生が集まり、角徹三名誉教授はじめ4名の旧教職員の先生方にもお越し頂きました。同窓会長のご発声による乾杯の後、美味しい食事を頂きながら、ご家族や職場でのお話に始まり、技科大での思い出話まで、一人一人に近況を語って頂き、多いに盛り上がった会となりました。次回の懇親会は、令和8年4月18日（土）に行う予定です。関西在住の方にかかわらず、皆さんのご出席をお待ちしております。



## トヨタ自動車豊橋技科大OB/OG会 新人歓迎会

### 開催概要

実施日	令和7年4月18日
開催場所	キャプテンジョーカーズ
出席者数	33名（内本学卒業・修了生33名）



### 申請者からのコメント

2009年度 修了 乃一 久幸

豊橋技科科学大学情報・知能工学系梅村恭司教授の定年退職を記念して、講演会及び関係者を集めた懇親会を開催しました。開催に伴い、研究室の卒業生・修了生をはじめ数多くの方にご参加いただき、お料理やお酒を堪能しながら近状を話すなど、話に花を咲かせることができました。最後には、梅村教授の定年退職を記念して、皆様に記載いただきました寄せ書きをプレゼントいたしました。また研究室同窓会を開催する際は、今回ご参加いただいた皆様も、都合により参加ができなかった皆様にも、ぜひご参加いただければと思います。

## 豊橋技術科学大学 VPAC・CNT 同窓会

### 開催概要

実施日	令和7年5月31日
開催場所	浜名湖弁天島リゾート THE OCEAN
出席者数	50名（内本学卒業・修了生42名）



### 申請者からのコメント

2018年度 修了 田村 秀希

2003年4月に白井支朗教授から、中内茂樹教授へと引き継がれた研究室 (BPEL) が、視覚認知情報学研究室 (VPAC: Visual Perception and Cognition) へと研究室名を改めた2010年度から、15年目を迎えました。そして、白井教授の時代から研究室秘書を長年務め続けていらっしゃる河合由紀様も昨年度定年を迎えられました。これらの祝いに際しまして、中内研究室および合同で研究を行っている南研究室 (CNT: Cognitive Neurotechnology Unit) のOBOG、元職員らを集めての同窓会を「浜名湖弁天島リゾート THE OCEAN」にて実施いたしました。本同窓会では、50名近くの研究室同窓生が、思い出写真のスライドショーなどによる余興を食事とともに楽しみました。



## 中日本建設コンサルタント豊橋技科大同窓会

### 開催概要

実施日	令和7年6月3日
開催場所	個室居酒屋 和菜美 名古屋駅前
出席者数	15名（内本学卒業・修了生15名）



### 申請者からのコメント

2021年度 修了 栗谷 樹

幹事を仰せつかりました栗谷です。出身大学が同じ社員同士の親睦を深めることを目的として、昨年度に引き続き、社内の豊橋技術科学大学OB会を開催しました。今年度は新入社員1名を含む豊橋技術科学大学卒業生の15名が集まりました。当会では、年齢層は離れていても和気あいあいとした雰囲気でお話することができました。来年度以降も新入社員を迎え入れ、会社をさらに盛り上げたいと思います。

## 2025 藤江研OB・OG会

### 開催概要

実施日	令和7年7月12日
開催場所	ウメ子の家 日本橋八重洲店
出席者数	19名（内本学卒業・修了生16名）



### 申請者からのコメント

2002年度 修了 橋場 名津子

2025 藤江研 OBOG 会を7月12日に東京にて開催し、19名の参加がありました。各自の近況報告を通じて旧交を温め、懐かしい研究室での思い出にも花が咲き、終始和やかな雰囲気に包まれる会となりました。厳しくも充実していた研究生活が、今では笑い合える貴重な思い出として語られることに、年月の重みとつながりの大切さを感じました。次回は2年後の開催を予定しております。今回ご都合が合わなかった方も、ぜひ次回ご参加ください。



## デンソー雲雀会

### 開催概要

実施日	令和7年7月18日
開催場所	Dスクエア 楽座
出席者数	30名（内本学卒業・修了生30名）



### 申請者からのコメント

1996年度 修了 高橋 欽弥

24年度に引き続き25年度のDN雲雀会（デンソーGr.内の豊橋技術科学大学OB・OG会）を開催しました。初参加の方も多く出席され、懇親会を通じて人脈形成できる良い場となっておりますので、今回ご出席できなかった方も含め、来年度はぜひご出席をお待ちしております。

## 4期生 全系合同同窓会

### 開催概要

実施日	令和7年8月23日
開催場所	豊橋商工会議所 9階大ホール
出席者数	73名（内本学卒業・修了生73名）



### 申請者からのコメント

1984年度 修了 村松 一生

大半が65歳になるため、同窓会適齢期との声が上がりに、全系合同の月次WEB会議を重ねました。結果的に73人が集まり、8月23日（土）13:30より豊橋商工会議所にて全系合同の一次会（立食パーティー）を開催しました。一次会では乾杯、歓談の後に、メインイベントとして各系からの時間を設定し、スライドショー、卒業時と今の写真比較、ウクレレ演奏、ショートスピーチなど、大いに旧交を温めました。夕方からは、各系の二次会をおこない、翌24日には、新城カントリー倶楽部でのゴルフコンペを行いました。なお、この会を契機に、技科大ホームミングデーに参画するための、研究室のOB会、ゴルフコンペなども企画しております。



## MEMS-HMN 同窓会・懇談会

### 開催概要

実施日	令和7年8月23日
開催場所	おでんと炙り焼きと日本酒 ほなか
出席者数	15名（内本学卒業・修了生10名）



### 申請者からのコメント

2024年度 修了 宮島輝

先日、1年ぶりの懇親会を開催いたしました。本会では、多くの卒業生・修了生の方々にご参加いただき、久しぶりの再会を喜び合いながら、業界の最新動向について意見交換を行うとともに、未来への展望を共有しました。また、恩師である柴田隆行先生、永井先生とも学生時代のお話をして非常に有意義な時間を過ごすことができました。次回の開催に向けて、さらに多くの方々と交流を深めることを楽しみにしておりますので、ぜひご参加ください。詳細は追ってご案内いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

## ICD-LAB同窓会

### 開催概要

実施日	令和7年9月5日
開催場所	創作美味 わっぱい
出席者数	28名（内本学卒業・修了生15名）



### 申請者からのコメント

2019年度 修了 香川真人

先日は9月5日に開催いたしました懇親会に、ご多忙の中ご参加いただき、誠にありがとうございました。特に過去5年程度の間にご卒業された皆様にお集まりいただき、懐かしい顔ぶれとの再会を喜び合う、大変貴重な時間となりました。皆様との交流を通じて、在学中とはまた違った新たな一面を発見できる、有意義なひとときとなりましたことを心より感謝申し上げます。この機会を活かし、今後も交流の輪が広がっていくことを願っております。また、長年お世話になった長谷川孔明助教に向けて感謝を伝える機会にもなりました。



## 2025年度豊橋技科大同窓会総会参加者懇親会

### 開催概要

実施日	令和7年9月6日
開催場所	鮪しゃぶしゃぶ・鯛めし 湊〇 (そうえん)
出席者数	17名 (内本学卒業・修了生 16名)



### 申請者からのコメント

2001年度 修了 稲田 亮史

2025年度本学同窓会総会を豊橋技科大サテライトオフィスで開催し、総会終了後に、対面参加者有志18名で懇親会を開催しました。毎年恒例のイベントで、殆どレギュラー(?)として参加されている方も多数いるのですが、今年は出張等が重なり参加できなかった方も見えました。昨年よりも若干人数は減りましたが、各自の近況や同窓会活動の課題・将来展開などをネタに、和やかな雰囲気での親睦を深めることができました。

次年度、本学は開学50周年記念を迎えます。本イベントも、次年度は少し趣向を変えた形での開催を検討できると良いな、と思っています。

## 電気電子・情報 (三志会) 一期生 同窓会

### 開催概要

実施日	令和7年10月4-5日
開催場所	あわら温泉 政竜閣
出席者数	12名 (内本学卒業・修了生 12名)



### 申請者からのコメント

1981年度 修了 高嶋 孝明

豊橋技術科学大学 電気・電子情報系 (三志会) 一期生の還暦同窓会を2017年9月に開催し、「これからは毎年集まろう」と決めました。ところが2020年はコロナ禍でやむなく中断。昨年は再開を試みましたが、参加者が少なく延期となりました。そして今年、ようやく念願かなって再び集まることができました。来年2026年は10月4～5日に関西方面で開催し、幹事は徳丸亀鶴君と所哲郎君。翌2027年には古希同窓会を豊橋近郊で開催し、幹事は古野志健男君です。この記事をご覧の一期生の皆さん、ぜひご参加ください。(連絡先: 事務局 / 高嶋孝明 takaaki.takashima@gmail.com)



## 旧5系 稲垣・逆井・武藤研究室OB会

### 開催概要

実施日	令和7年11月1日
開催場所	割烹旅館松米
出席者数	26名（内本学卒業・修了生25名）



### 申請者からのコメント

1984年度 修了 村松 一生

旧5系は、現在は応用化学・生命工学系に変わり、各研究室のOB会は、比較的疎遠になっていました。今回、11月1日（土）に開催されたホームカミングデイを良い機会として、旧5系の稲垣・逆井・武藤研究室のOB会を開催することを計画しました。90歳になられてもお元気に論文を執筆されている稲垣先生にも参加いただき、1期生から21期生の26名が集う、懐かしく、楽しい会を開催することができました。当日は、ホームカミングデイに参加後の、18時半から八丁通りの松米旅館に集いました。乾杯、稲垣先生のお言葉に続き、各自の近況報告、今後に向けた力強い抱負が相次いで語られ、豊橋アイデンティティを確認しあうことができました。

## 建築・都市システム学系（旧建設工学系）同窓生交流会

### 開催概要

実施日	令和7年11月1日
開催場所	うお鶏 豊橋駅前店
出席者数	18名（内本学卒業・修了生14名）



### 申請者からのコメント

2008年度 修了 松尾 幸二郎

ホームカミングデー2025を豊橋技科大で開催した後、建築・都市システム学系（旧建設工学系）の同窓生および教員の有志18名で交流会を開催しました。昭和、平成、令和という様々な年代に卒業・修了した同窓生が集まり、各同窓生や建築・都市システム学系の近況などを共有しました。互いに大いに親睦を深め、とても有意義な交流の機会になりました。次回のホームカミングデー開催時（おそらく2年後）も、本交流会を開催したいと思いますので、同窓生の皆様、ぜひお集まりいただければと思います。



## 米津・朴研究室同窓会

### 開催概要

実施日	令和7年11月1日
開催場所	たつみ屋
出席者数	22名（内本学卒業・修了生20名）



### 申請者からのコメント

2010年度 修了 山根 啓輔

2025年度のホームカミングデーの日程に合わせて、米津・朴研究室同窓会を開催した。同窓会参加者の一部はホームカミングデーにも参加していただくことができた。前回2016年に行っており、今回9年ぶりの開催となった。合わせて米津先生の84歳のお誕生日のお祝いも行った。次回もホームカミングデーなど大学のイベントに合わせて行いたいと考えている。

## TUTフォーミュラ20周年記念会

### 開催概要

実施日	令和7年11月8日
開催場所	華乃井テラス
出席者数	36名（内本学卒業・修了生17名）



### 申請者からのコメント

2011年度 修了 本田 祐介

自動車研究部(TUTフォーミュラ)の創立20周年記念会を開催しました。この催しは現役部員とOBにより企画し、活動を支えてくださる個人・企業のスポンサーの方にもお越し頂きました。昼の部では大学講義室にて現役学生による活動報告会、自動車メーカー勤務のOBから車両設計のアドバイス・開発マネジメントに関する講義を行いました。夜の部では、自動車研究部の歴代車両にまつわる思い出をOBが語った他、長年お世話になっている個人スポンサーの方からは、海外の学生フォーミュラ動向に関する貴重な講演を頂きました。今後も自動車研究部に関わる現役学生、OB・OG、学外の協力者とのつながりを継続、発展させていきたいと思っています。



本学は、公式ウェブサイト、公式 SNS、大学広報誌、FM ラジオ等様々な媒体を通じ、大学情報の発信を行っています。



## 大学公式ウェブサイト

<https://www.tut.ac.jp/> (日本語版)

<https://www.tut.ac.jp/english> (英語版)



## 天伯 TEMPAKU

年2回発行

本学の研究やイベント、課外活動などの「ギカダイの今」をお届けする広報誌です。



<https://www.tut.ac.jp/tempaku/>



## TUT Research e-Newsletter from Toyohashi University of Technology

年4回発行

最新の研究成果や取り組みを、日英バイリンガルにて発信している研究広報ウェブマガジンです。



<https://www.tut.ac.jp/english/newsletter/>



# 大学の広報活動

University public relations activities

## 大学公式 SNS

facebook、X (旧 Twitter)、YouTube にて、イベント情報や学内風景を随時発信しています。



## FM ラジオ広報「天伯之城 ギカダイ」

エフエム豊橋 (84.3 MHz) にて毎週土曜日夕方 5 時過ぎに放送しています。毎週、本学教員の興味深い研究内容や本学の取り組みなどを地域の皆様に向け紹介しています。放送の音声データは、本学ウェブサイトにて聴取可能です。



<https://www.tut.ac.jp/castle.html>

## 季報「技科大の顔」配信中

同窓会では、さまざまな世代の卒業生の活動・近況・大学や後輩へのメッセージなどをお伝える季報「技科大の顔」を配信しています。こちらもぜひご覧ください。

### 季報「技科大の顔」

<https://alumni.tut.jp/newsletter/>



